

立山町の地域概況（案）（中間まとめ）

1 公共交通に関する現況把握及び整理

1－1 地域特性の整理

（1）人口の状況

① 総人口及び将来見通し

・本町の人口は、2050 年には 2020 年の約 3 分の 2 まで減少するものと予測されています。

本町の 2020 年（令和 2 年）国勢調査人口は 24,792 人となっています。

国立社会保障・人口問題研究所の令和 5 年（2023）推計では、2050 年（令和 32 年）には 16,518 人となり、2020 年（令和 2 年）の約 3 分の 2 まで減少すると予測されています。

本町では少なくとも 2018 年の国立社会保障・人口問題研究所の推計結果以上の人口を維持することを、第 2 次立山町人口ビジョンにおける人口の将来展望（将来展望人口（第 2 次））とし、合計特殊出生率の向上と転出超過傾向にある社会減対策を同時に進め、できる限り将来人口の減少を抑制するとともに、関係人口の創出を進めることで、町の活力維持に努めています。

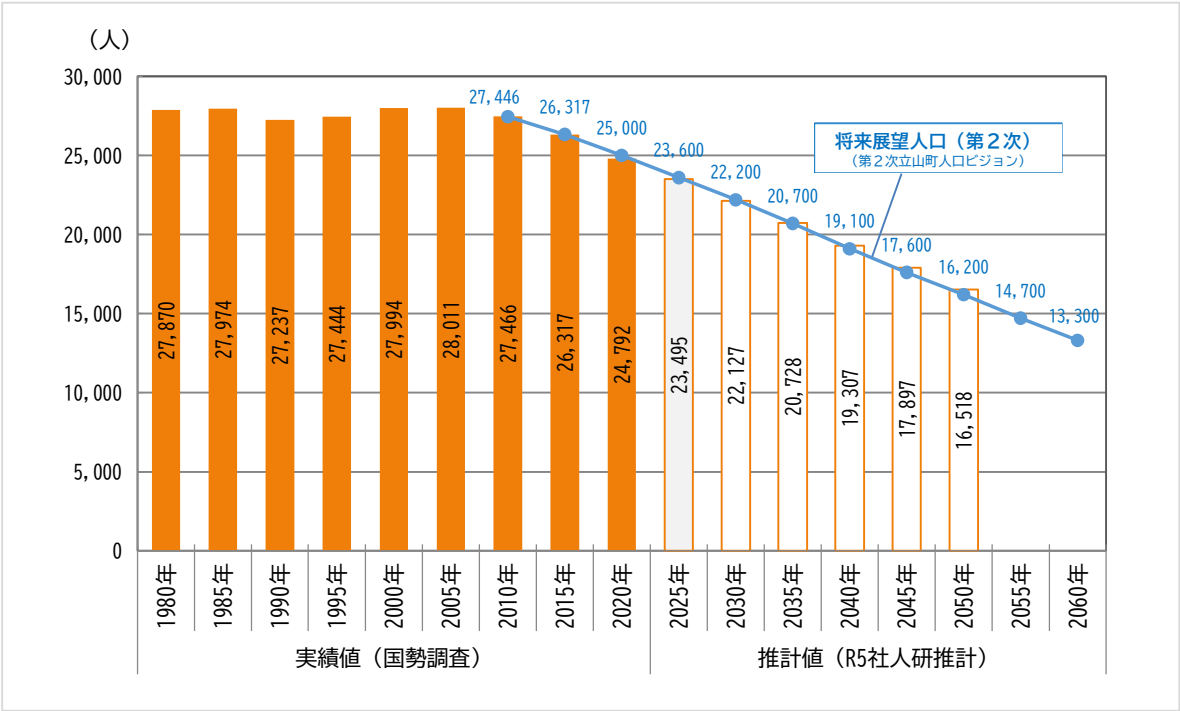


図 立山町の総人口及び将来の見通し
（各年国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口（R5 年推計）」、
第 2 次立山町人口ビジョン R3.3）

② 年齢別人口構成

・少子高齢化が進行し、2050年には高齢化率は44.7%になるものと予測されています。

年齢3区分別人口割合について経年変化を見ると、年少人口（0～14歳）と生産年齢人口（15～64歳）の割合が低下、老年人口（65歳以上）の割合が上昇しており、少子高齢化が進んでいます。令和2年（2020年）の高齢化率は33.5%であり、国立社会保障・人口問題研究所の令和5年（2023年）推計では、2050年（令和32年）には約10ポイント上昇し、44.7%になると予測されています。

年齢3区分人口（実数）について見ると、年少人口（0～14歳）と生産年齢人口（15～64歳）は著しく減少し2050年（令和32年）には、令和2年（2020年）の約4～5割が減少する見込みです。

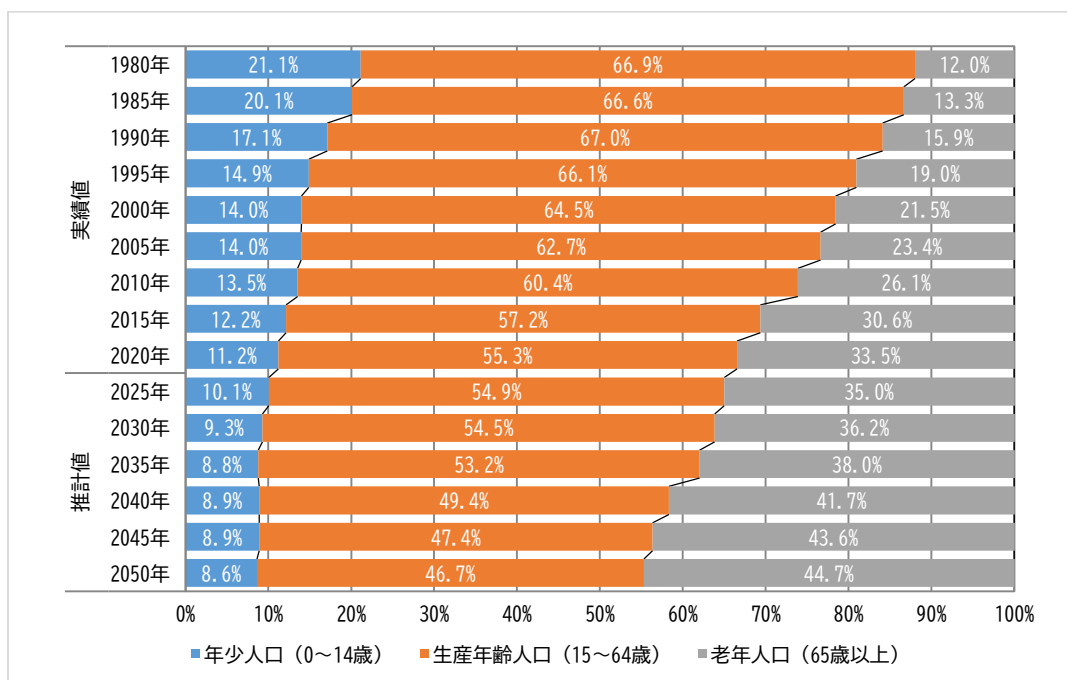


図 年齢3区分別人口割合の推移
(各年国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口（R5年推計）」)

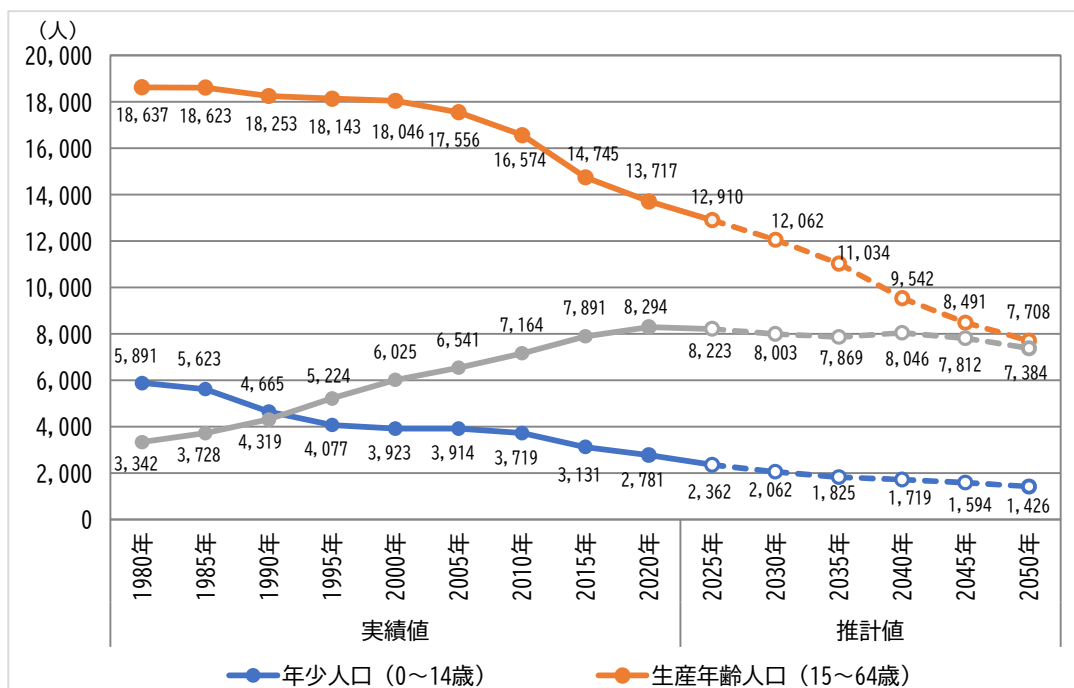


図 年齢3区分別人口(実数)の推移
(各年国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口（R5年推計）」)

③ 地区別人口

- ・主に町北部の平野部で人口が多く、平成 26 年に比べ特に五百石地域や利田地域で人口がやや増加しています。
- ・主に東谷地区や立山地区などの山間部、上段地区の一部で少子・高齢化が進行しています。

■地区別人口の状況

令和 5 年の住民基本台帳の地区別人口をみると、町中心部である五百石地区を筆頭に利田地区や新川地区など主に町北部の平野部で人口が多くなっています。また、利田地区や五百石地区で人口が平成 26 年に比べ、やや増加する一方、その他の地区では人口が減少しています。

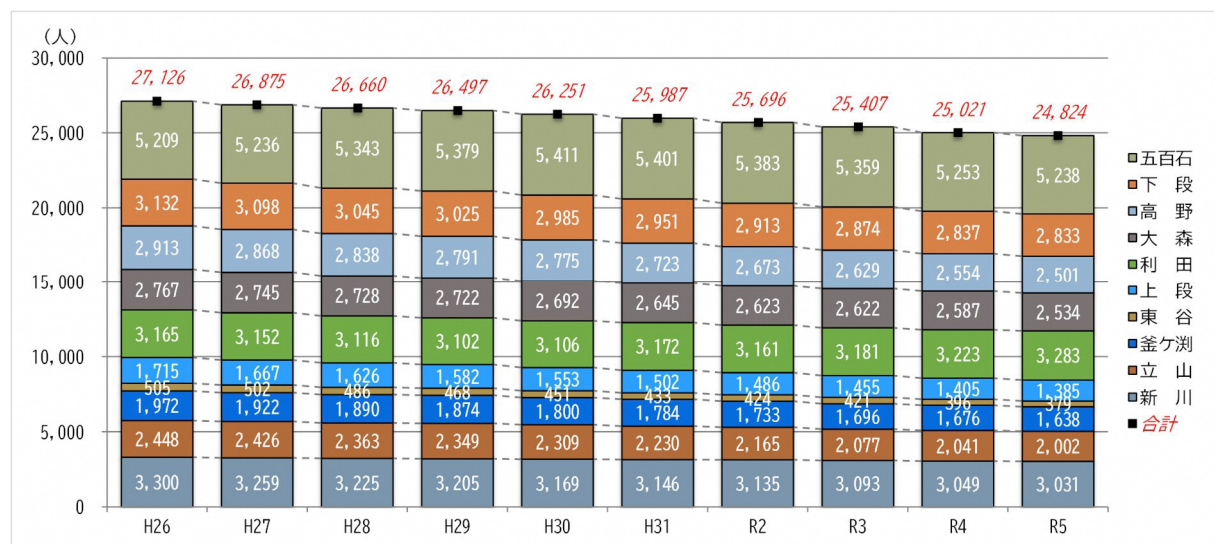


図 地区別人口（住民基本台帳）各年 4 月 1 日現在

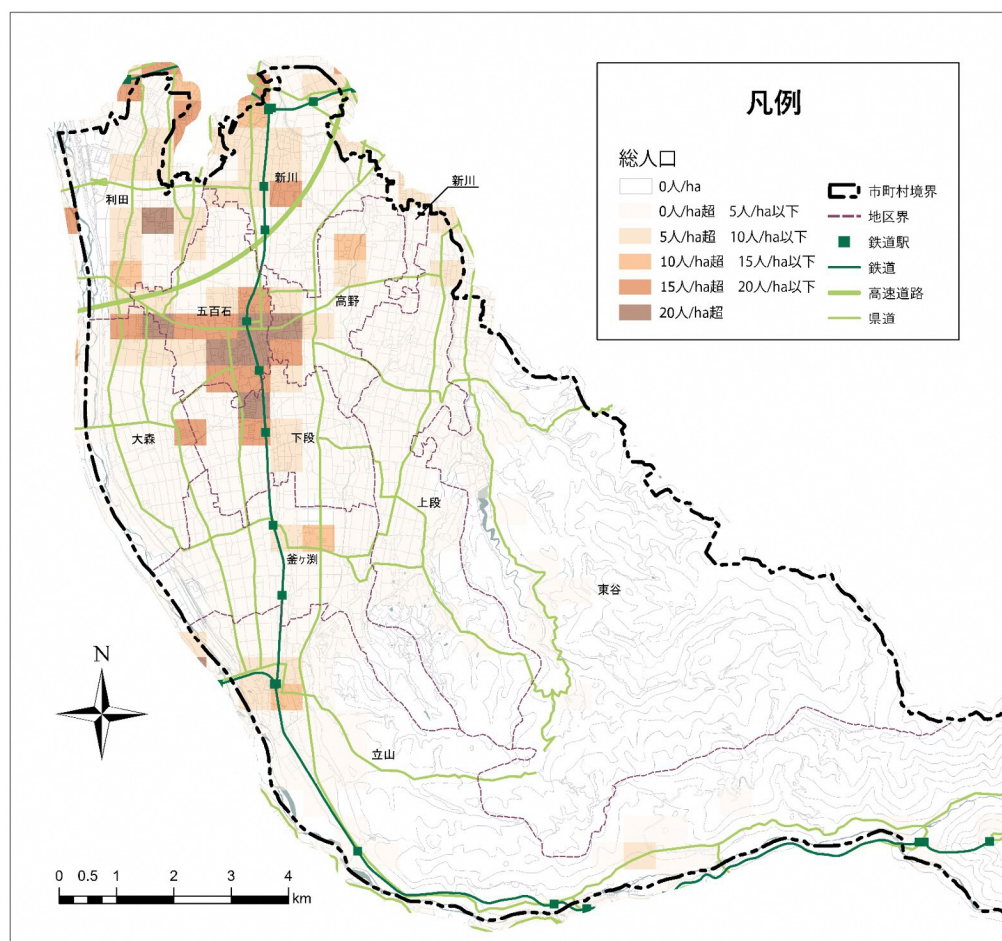


図 令和 2 年国勢調査 地区別人口（500mメッシュ統計）

■高齢者の状況

2020 年（令和 2 年）国勢調査をもとに、65 歳以上の人口（老年人口）を地区別にみると、五百石駅や榎町駅などの富山地方鉄道沿線や大森地区、利田地区の一部で高齢者数が多い傾向があります。

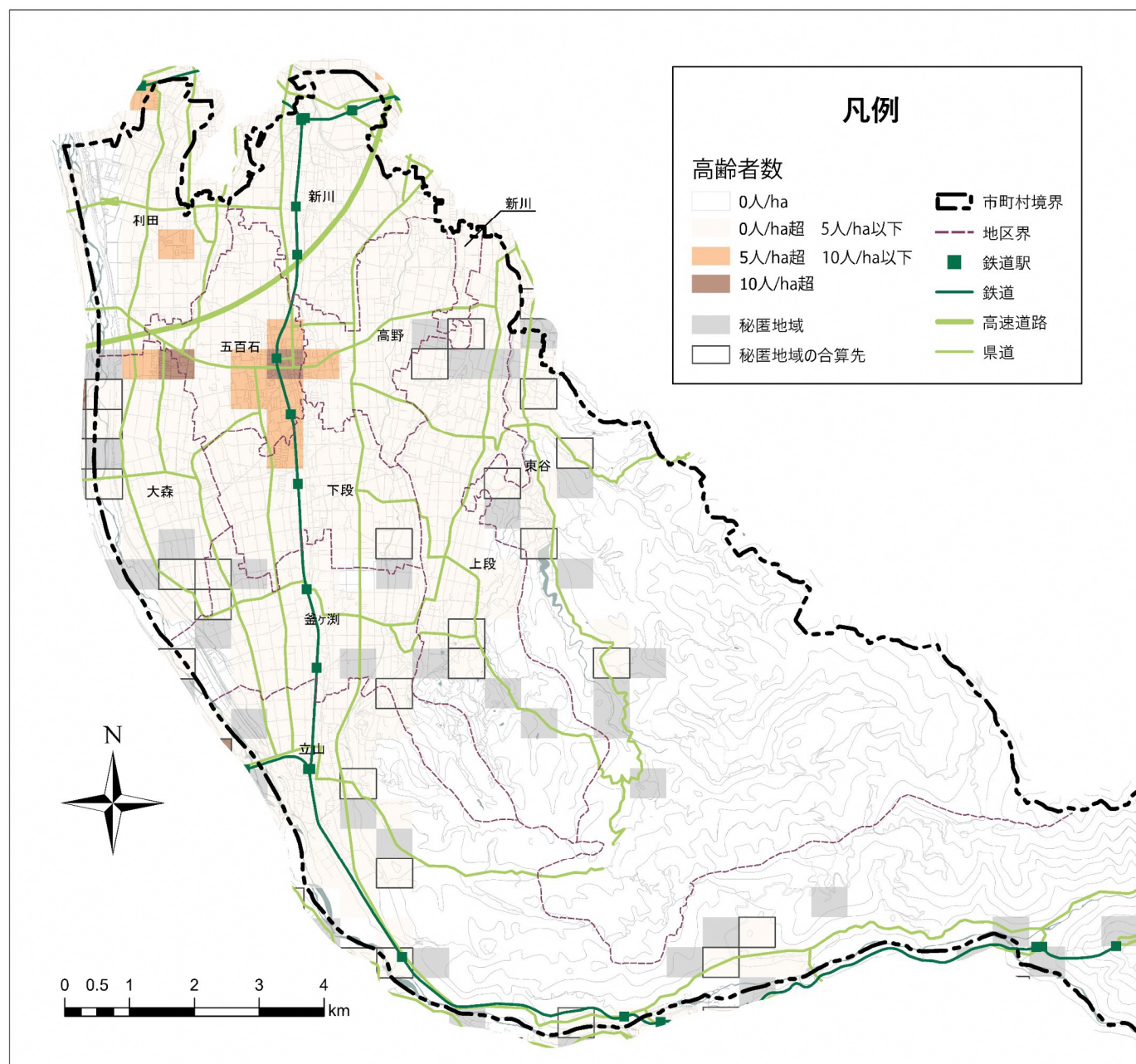


図 令和 2 年国勢調査 地区ごとの高齢者数（500mメッシュ統計）

■高齢化率の状況

2020 年（令和 2 年）国勢調査をもとに、65 歳以上の人口（老年人口）の割合を地区別にみると、東谷地区や立山地区の山間部、上段地区の一部で高齢化率が高い傾向があります。

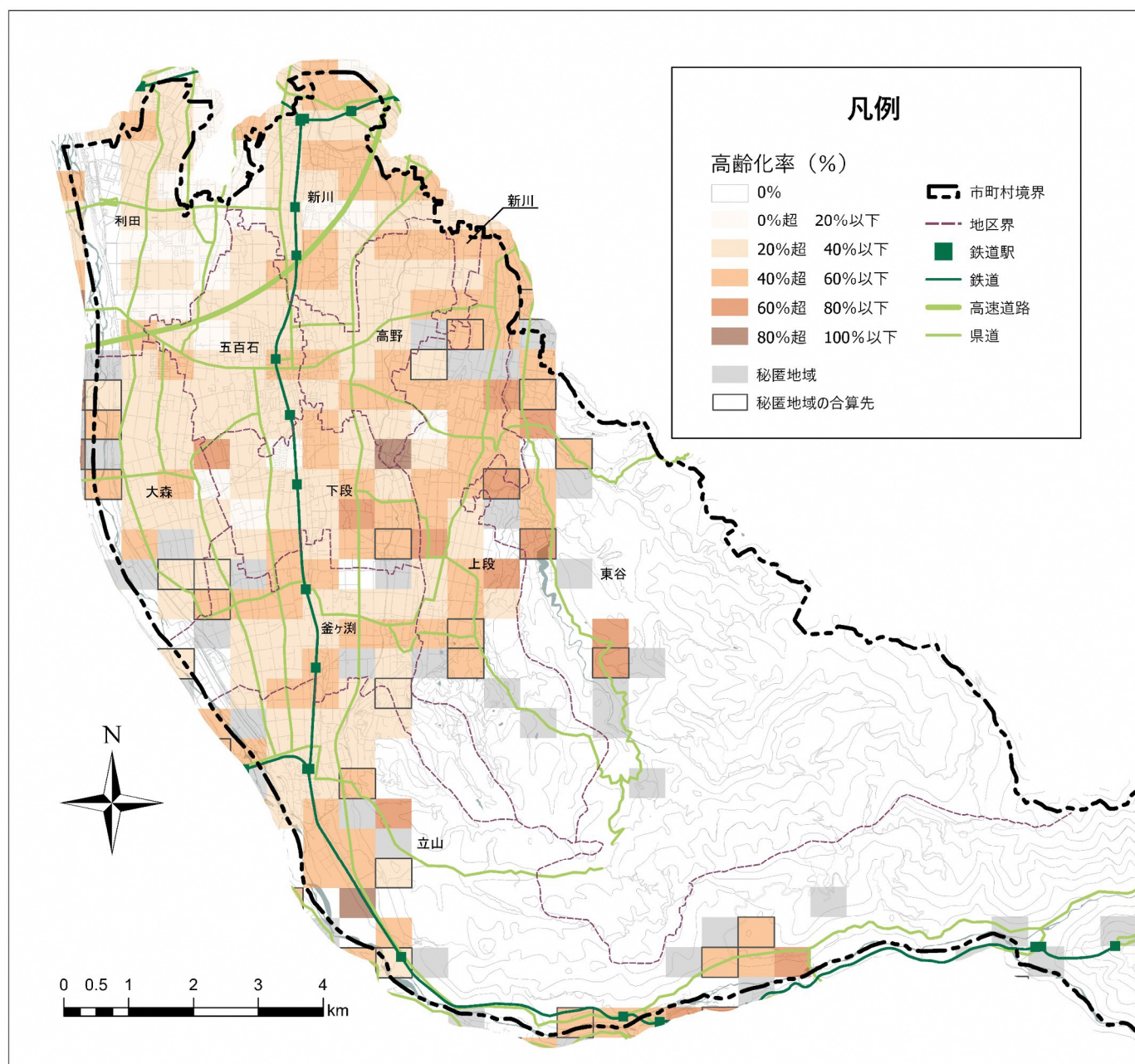


図 令和 2 年国勢調査 地区ごとの高齢化率（500mメッシュ統計）

■高齢者変化数の状況

国勢調査をもとに、2010 年（平成 22 年）から 2020 年（令和 2 年）における 65 歳以上の人口（老年人口）の変化数を地区別にみると、大森地区や五百石地区、利田地区、下段地区の一部で高齢者数の増加が大きい傾向があります。そのほかの町域では、微増減する地域が混在している状況です。

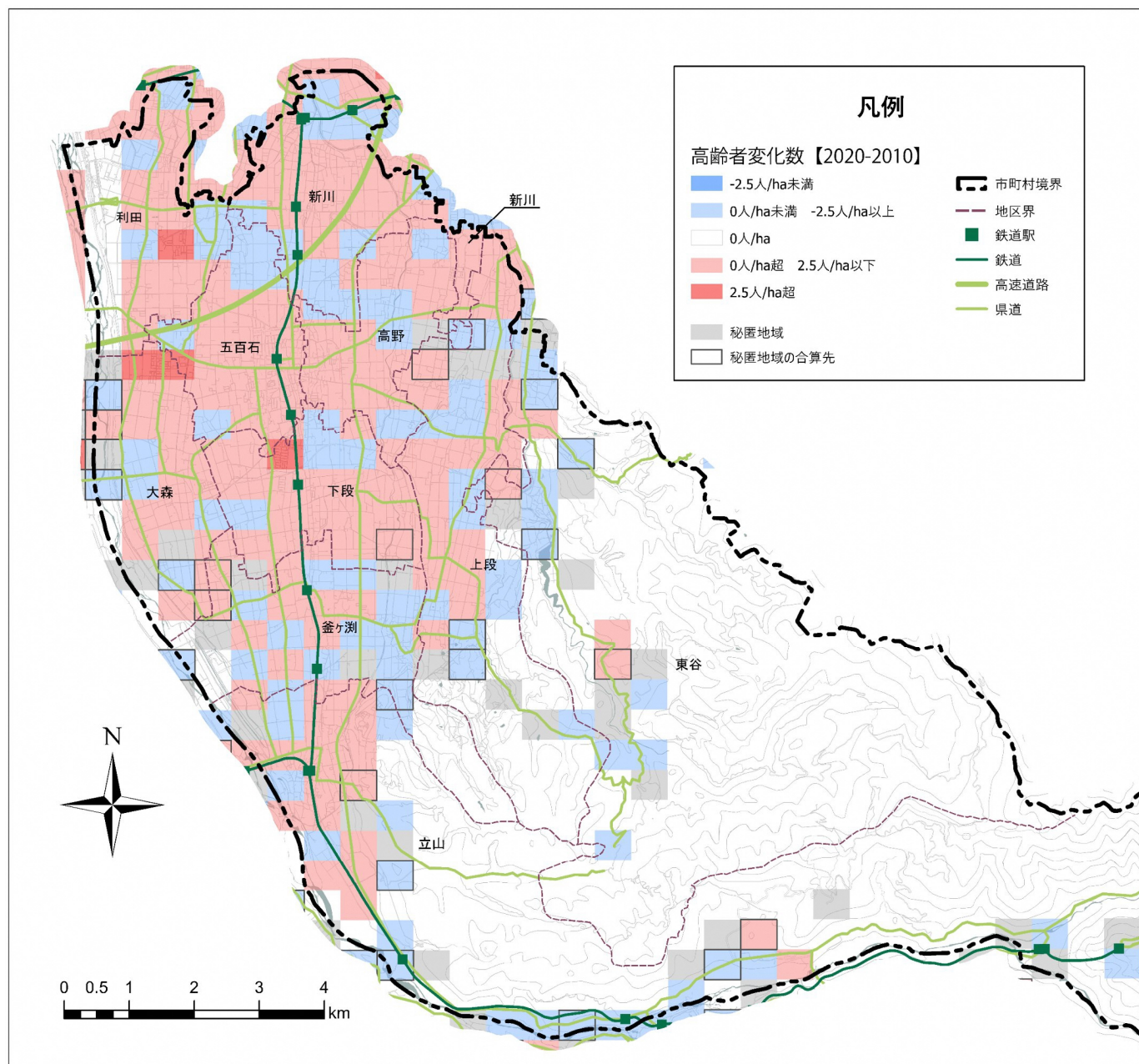


図 平成 22 年及び令和 2 年国勢調査 地区ごとの高齢者変化数（500mメッシュ統計）

■年少人口の状況

2020 年（令和 2 年）国勢調査をもとに、15 歳未満の人口（年少人口）を地区別にみると、利田地区の一部で年少人口が多い以外は、年少人口が少ない状況です。

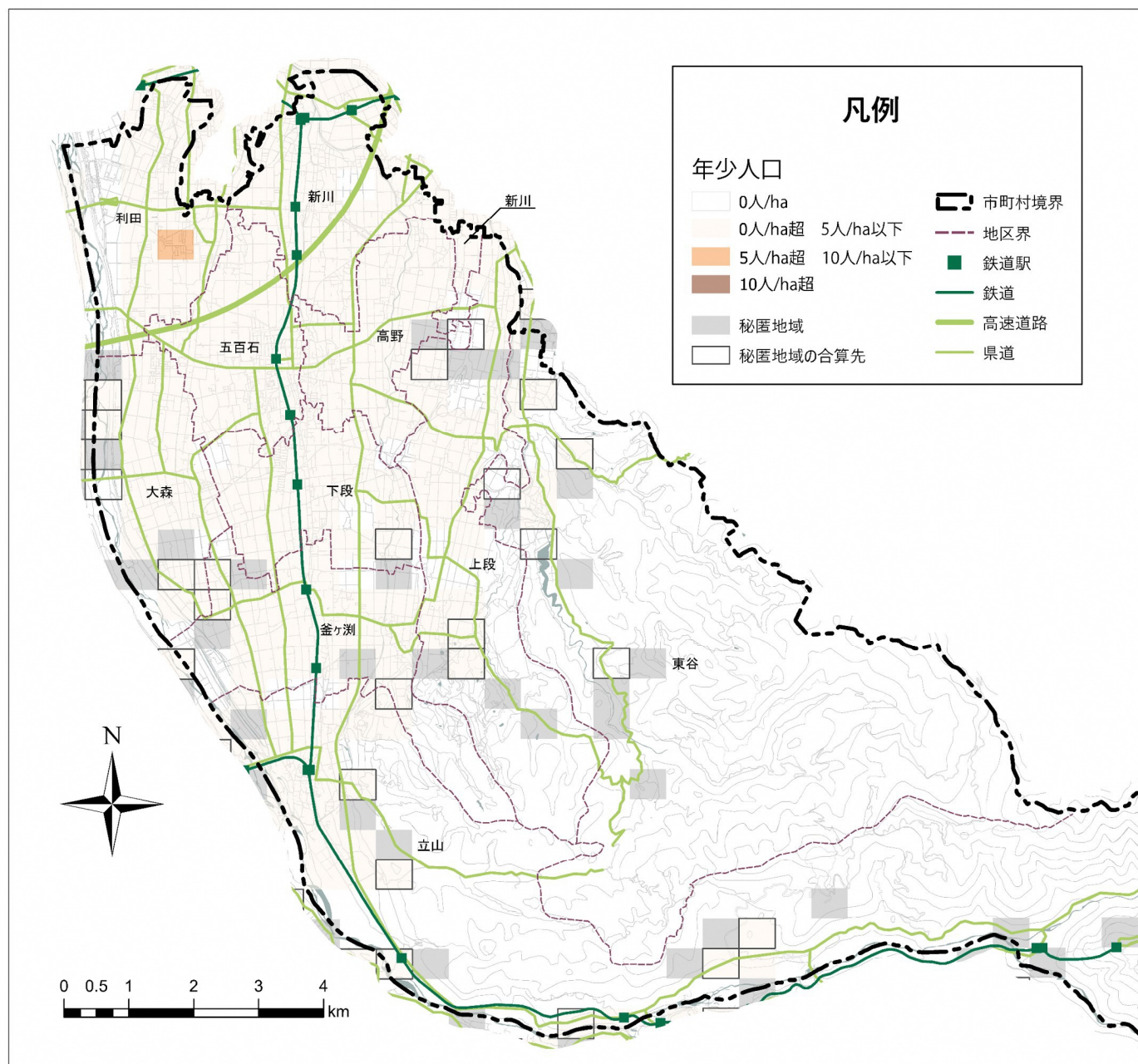


図 令和2年国勢調査 地区ごとの年少人口（500mメッシュ人口統計）

■年少人口の割合

2020 年（令和 2 年）国勢調査をもとに、15 歳未満の人口（年少人口）の割合を地区別にみると、平野部では利田地区や新川地区、大森地区、五百石地区、山間部では立山地区の一部で年少人口割合がやや高い傾向にあります。

そのほかの町域では、年少人口割合が低い状況です。

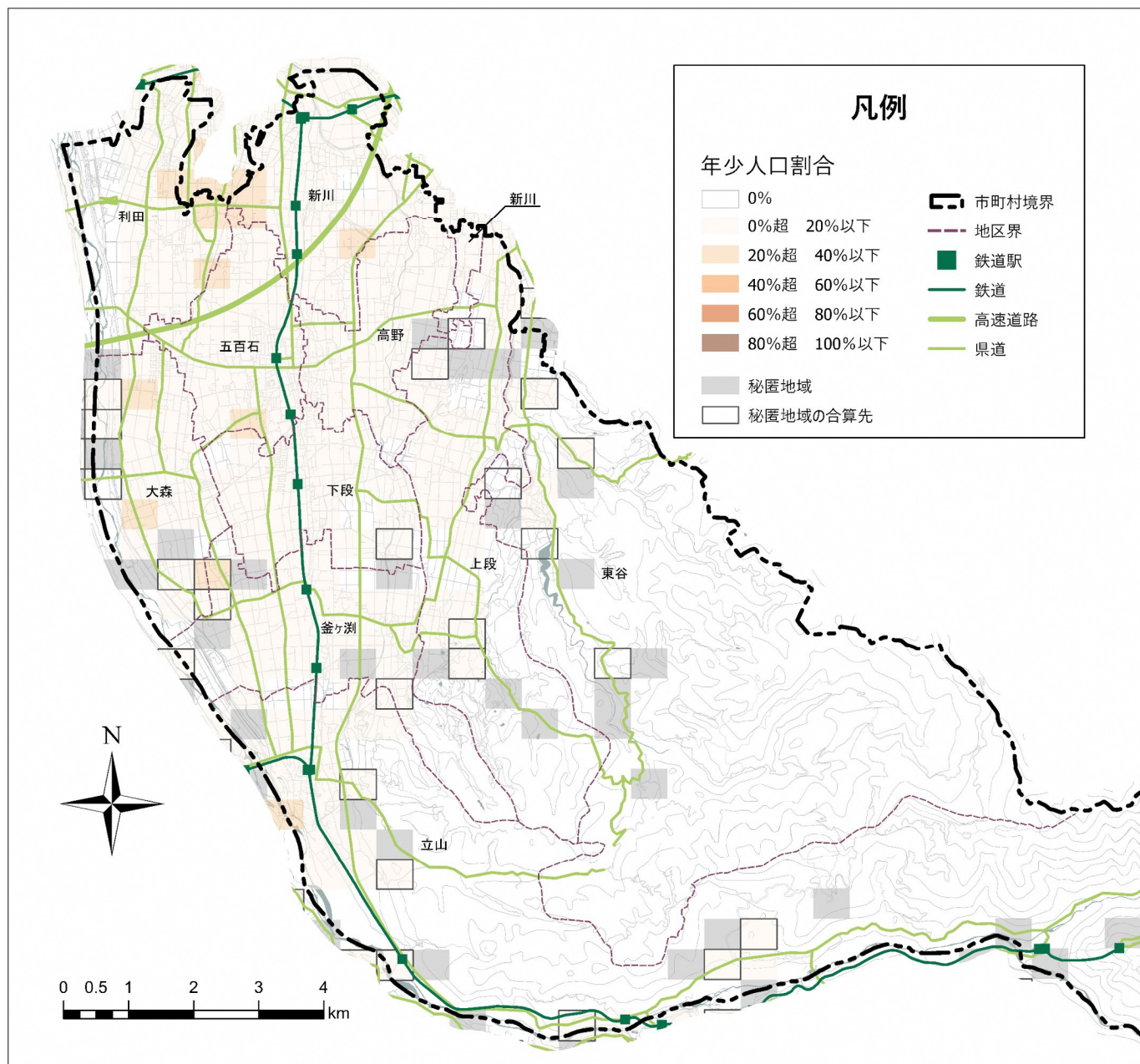


図 令和 2 年国勢調査 地区ごとの年少人口（500mメッシュ人口）

■年少人口変化数の状況

国勢調査をもとに、2010年（平成22年）から2020年（令和2年）における15歳未満の人口（年少人口）の変化数を地区別にみると、五百石地区と大森地区の一部で年少人口数の減少が大きい状況です。

そのほかの町域では、微増減する地域が混在している状況です。

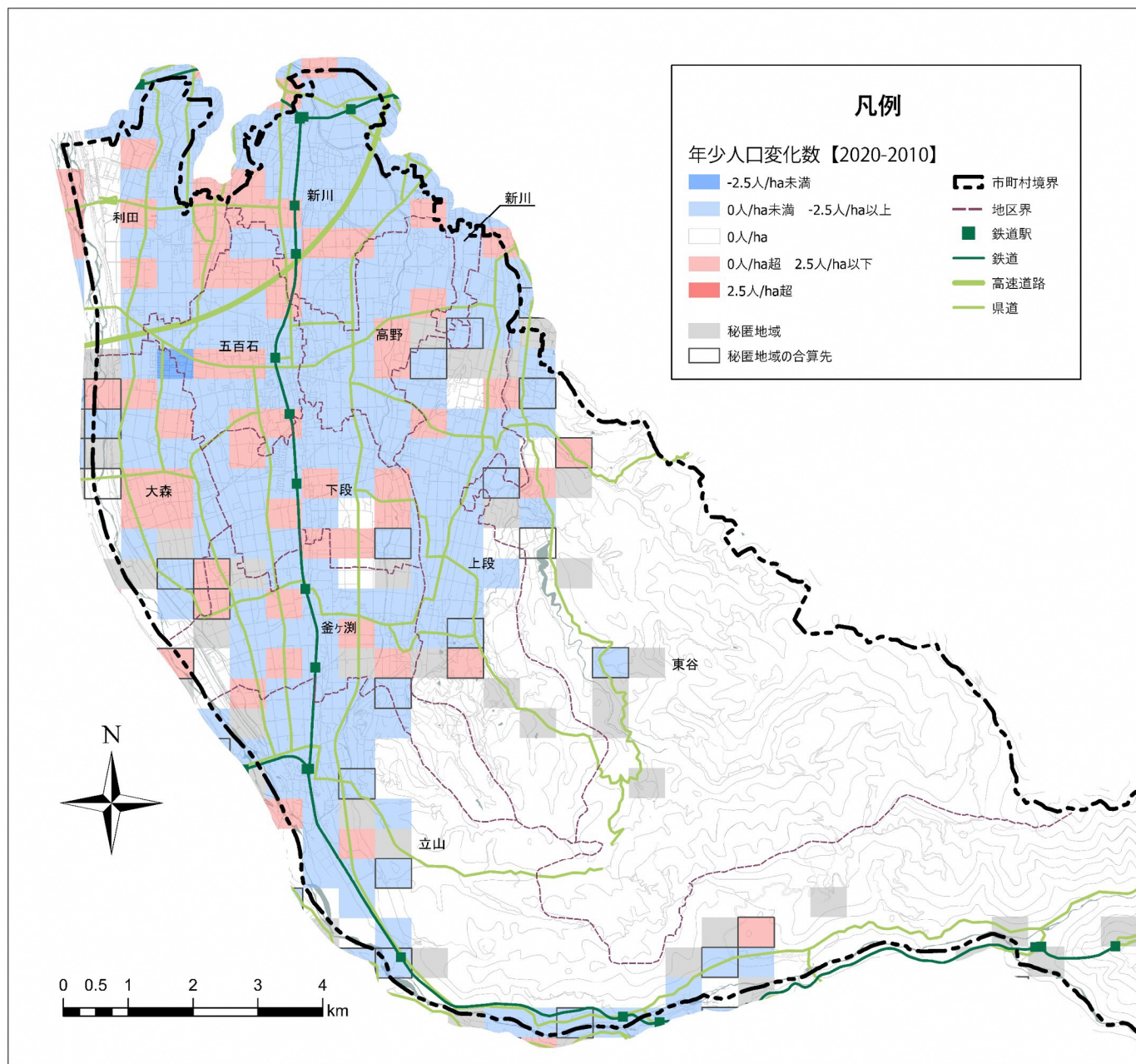


図 平成22年及び令和2年国勢調査 地区ごとの年少人口変化数（500mメッシュ統計）

(2) 主要施設の状況

① 立地状況

・町の中心部である五百石地区に主に施設が立地しています。

公共施設や病院、商業施設、文化・スポーツ施設などの主要施設は、町の中心部である五百石駅周辺に主に立地するほか、下段地区、利田地区、立山地区でも比較的施設の立地が多く見られています。

食品スーパーを含む大規模小売店は、駅から離れた県道沿いに立地するケースが多くなっています。

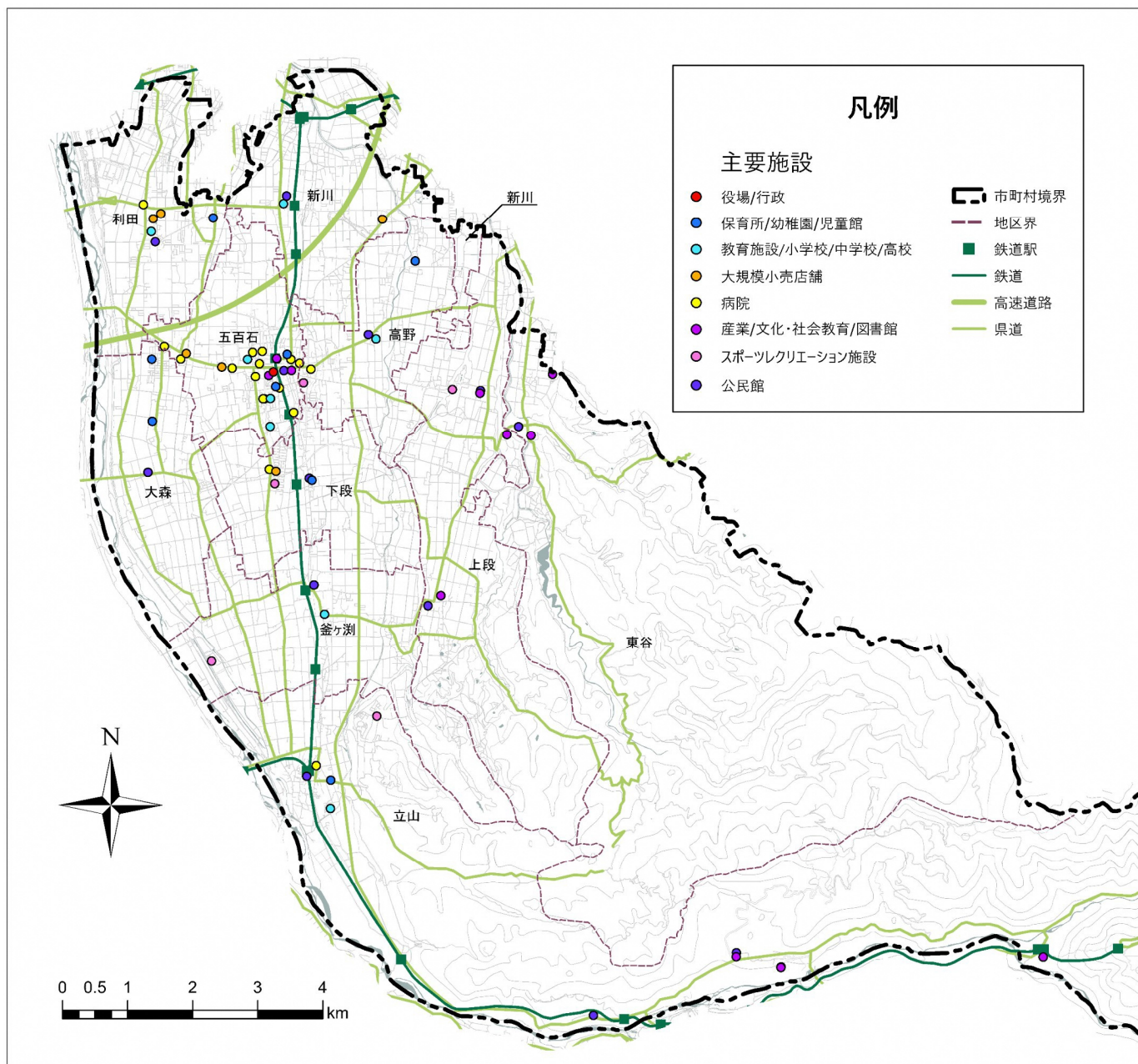


図 主要施設の立地状況
(立山町HP施設マップ、国土数値情報、大規模小売店舗の概要(富山県)R5.4.1)

② 利用状況

- ・町営施設のうち「図書館」や「中央体育センター」の利用者が多い状況です。
- ・図書館の利用者は、新型コロナウイルスの影響から大幅に減少しました。

■町営施設の利用状況

令和4年度の一日当たりの利用者数をみると、「図書館」が329人/日と最も多く、「中央体育センター」等が続きます（これら2施設で全体の約7割を占めます。）。

一日当たりの利用者数の推移をみると、「図書館」は令和元年度まで概ね横ばいの傾向で推移していましたが、令和2年度以降に新型コロナウイルスの影響から大幅に減少しました。令和4年度は、令和元年度と比べ4割減少した状態となっており、コロナ禍前の平成30年度以前の水準には回復していません。

一方、「中央体育センター」は、令和元年度まで概ね横ばいの傾向で推移していましたが、概ね増加傾向が続いています。

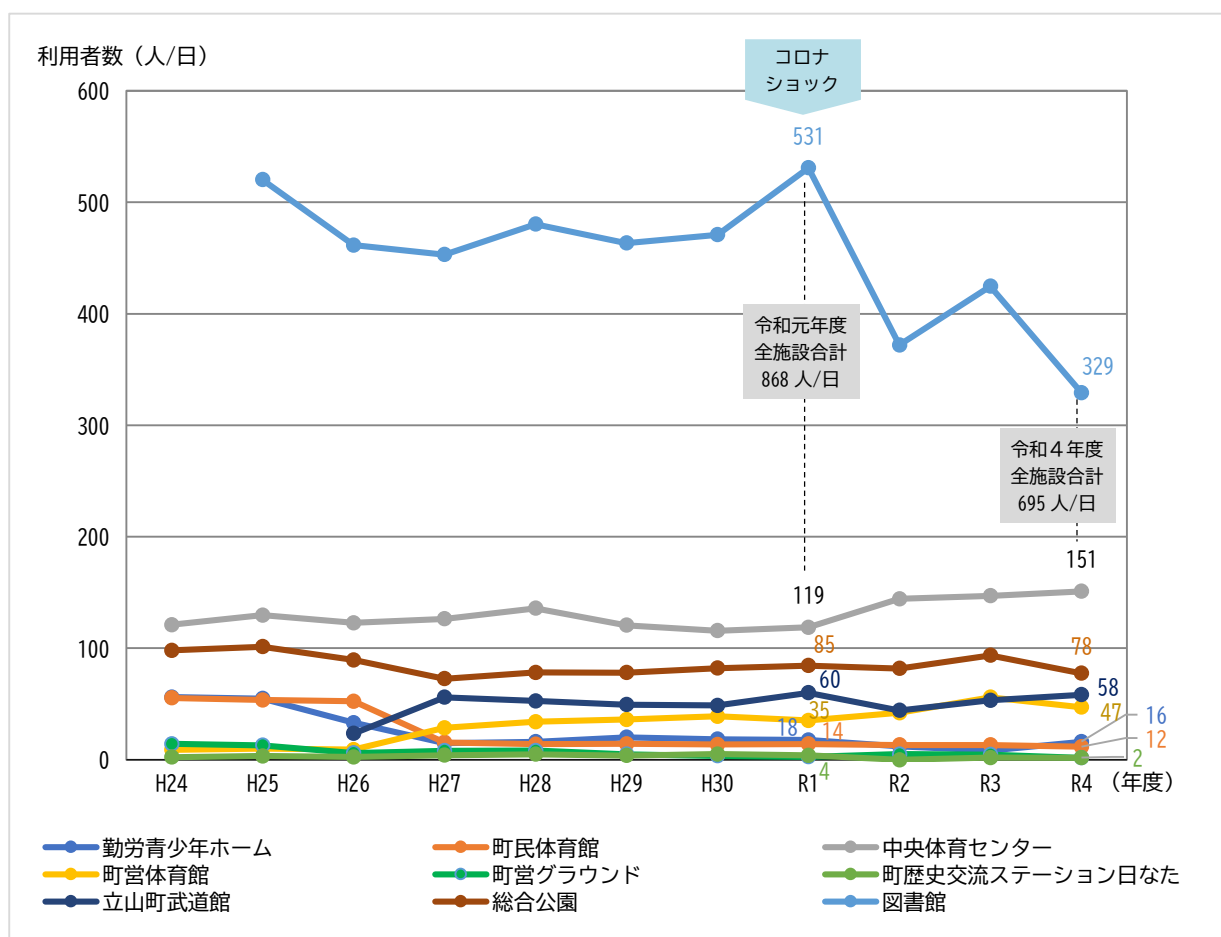


図 町営施設の利用者の推移（教育課資料）

1-2 既存公共交通及びその利用状況の現況整理

(1) 利用者の現状・推移の整理

① 町内公共交通の概要

・富山地方鉄道立山線を軸に、富山地方鉄道バス、町営バスによって公共交通ネットワークが形成されています。

本町では、地域交通軸として町域を南北方向に走る富山地方鉄道立山線が骨格となっており、町内に13の駅（立山線12駅、本線1駅）が設置されています。地域の状況に応じた路線バス・コミュニティバス等としては、富山地方鉄道バス（3路線）、町営バス（6路線）によるネットワークが形成されています。本町は、公共交通を利用して、県庁所在地である富山市の中心部まで約30分でアクセスできる利便性を有しています。

県内主要観光地である立山黒部アルペンルートには、立山駅からケーブルカーや高原バス等でアクセス可能となっています。

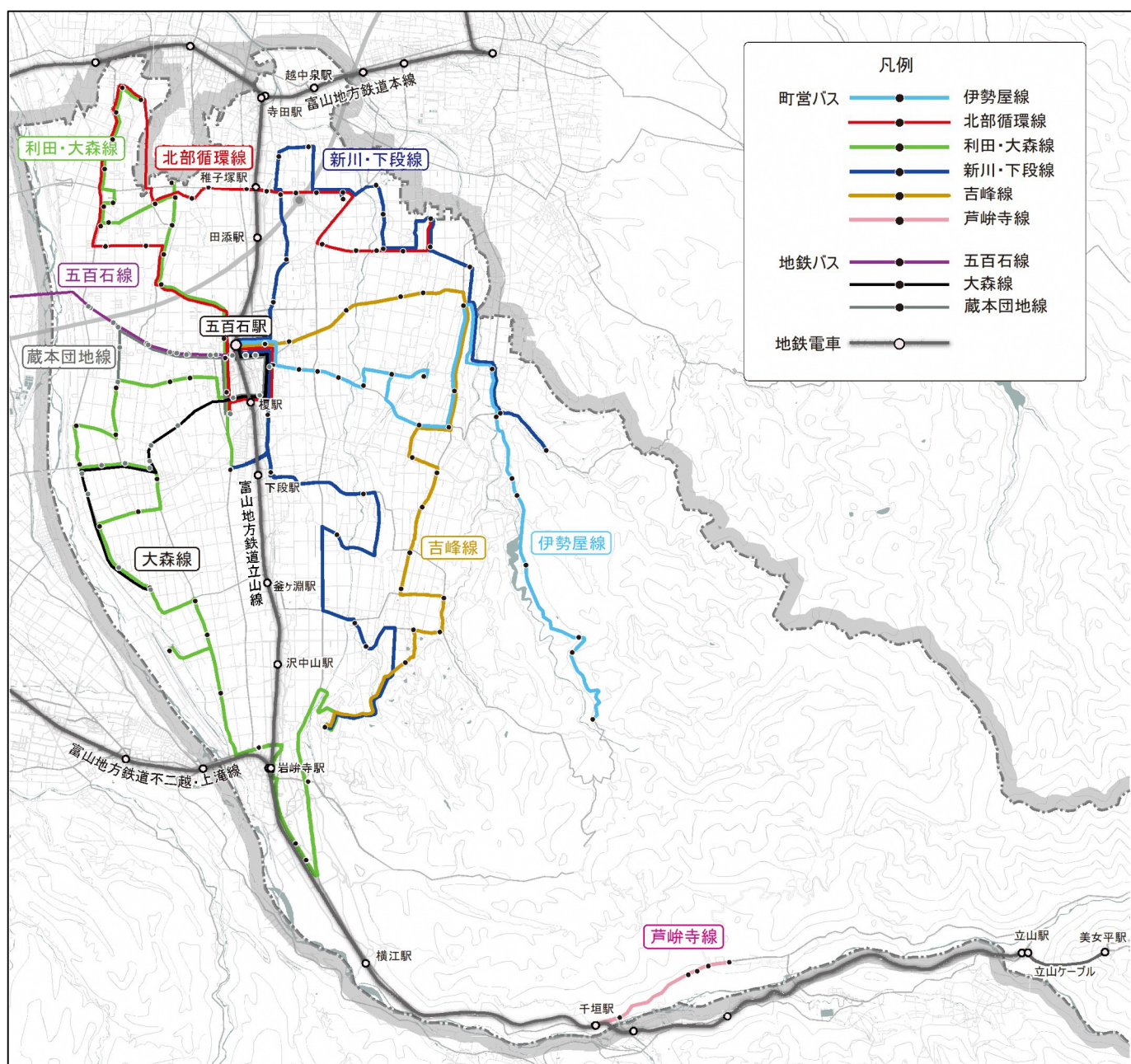


図 立山町の公共交通網 R6.7 時点
(町資料、富山地方鉄道 HP、とやまロケーションシステム)

② 富山地方鉄道【鉄道】

・富山地方鉄道立山線は、町内外を結ぶ地域交通の軸となっていますが、利用者数はコロナ禍の影響を受け大きく減少し、コロナ禍前の水準には回復していません。

■概要

町内を南北に縦断し立山駅と電鉄富山駅を結ぶ富山地方鉄道立山線は、町内外を結びつける地域交通の軸となっており、町内には五百石駅や岩嶺寺駅を始めとする 12 駅が立地しています。

町内を運行する富山地方鉄道は、立山線以外にも、本線（越中泉駅）及び不二越・上滝線（岩嶺寺駅）の一部があります。

表 富山地方鉄道立山線運行本数（富山地方鉄道HP）R5.7 時点

方 面	平日	休日	備 考
富山方面	28 (1)	26 (2)	
立山方面	30 (4)	27 (4)	岩嶺寺止を含む

※（ ）は運行本数のうち特急・快速数。運行本数には期間運転を含む。

■利用状況

富山地方鉄道町内駅の一日当たりの利用者数は、北陸新幹線が開業した平成 27 年度に大きく増加し、その後、微増傾向が続いていましたが、新型コロナウイルスの影響で令和 2 年度には大幅に減少（H30 年比 28%減）しました。その後、増加に転じていますがコロナ禍前の平成 30 年度以前の水準には回復していません。

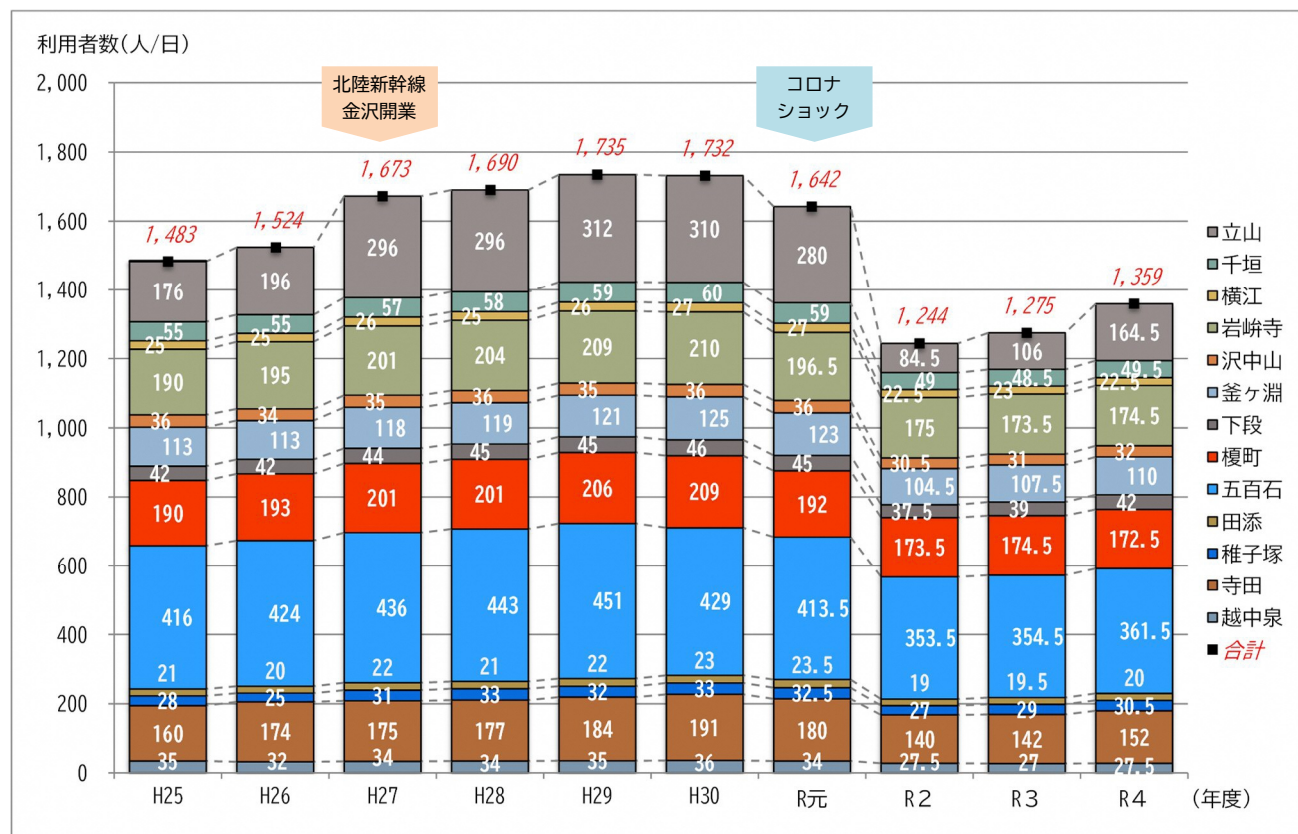


図 富山地方鉄道町内駅の 1 日当たり利用者数（富山地方鉄道資料）

※ 1 日当たりの利用者数は、1 日平均乗降人員数を 2（乗降）で除して算出

*1 岩嶺寺駅は立山線、不二越・上滝線の合計値 *2 越中泉駅は本線

③ 富山地方鉄道バス（地鉄バス）【路線バス】

- ・地鉄バスは、町内に計3路線運行されています。
- ・「五百石線」は、町内外を結ぶ地域交通の軸となっていますが、利用者数はコロナ禍前の水準には回復していません。
- ・「大森線」や「蔵本団地線」は、町内移動を担っており、利用者数は近年増加傾向にあります。

■概要

富山地方鉄道バス（地鉄バス）は、町内に3路線運行されています。

このうち、「五百石線」は、富山市内と町内住宅地と五百石駅を結ぶ地域交通の軸となっており、平日で37本/日、休日で27本/日が運行されています。

「大森線」や「蔵本団地線」は町内移動を担う路線として、平日で計5本/日が運行されています。運賃は、距離別運賃制で170～630円となっています。

表 地鉄バス運行本数（富山地方鉄道HP）R6.7時点

路線名	経由・経路	運行本数（本/日）		備 考
		平日	休日	
①五百石線	石金経由	10	11	地域間幹線系統補助
	大泉経由	27	16	
②大森線	五百石駅前～一夜泊	2	—	学休日運休
	大清水～雄山中学校前	1	—	
③蔵本団地線	蔵本新～五百石駅	2	—	学休日運休
合 計		42	27	

■利用状況

一日当たりの利用者数をみると、「五百石線」は令和元年度まで概ね横ばいの傾向で推移していましたが、令和2年度以降に新型コロナウイルスの影響から大幅に減少（H30年比25%減）しました。その後、増加に転じていますがコロナ禍前の平成30年度以前の水準には回復していません。

「大森線」は、平成26年度に著しく減少した後、概ね横ばいの傾向で推移していましたが、近年は増加傾向に転じてきています。「蔵本団地線」は、平成26年度に著しく増加した後、概ね横ばいの傾向で推移していましたが、令和2年度に新型コロナウイルスの影響から大幅に減少（H30年比50%減）しました。その後、増加に転じコロナ禍前の平成30年度以前の水準を大きく上回っています。

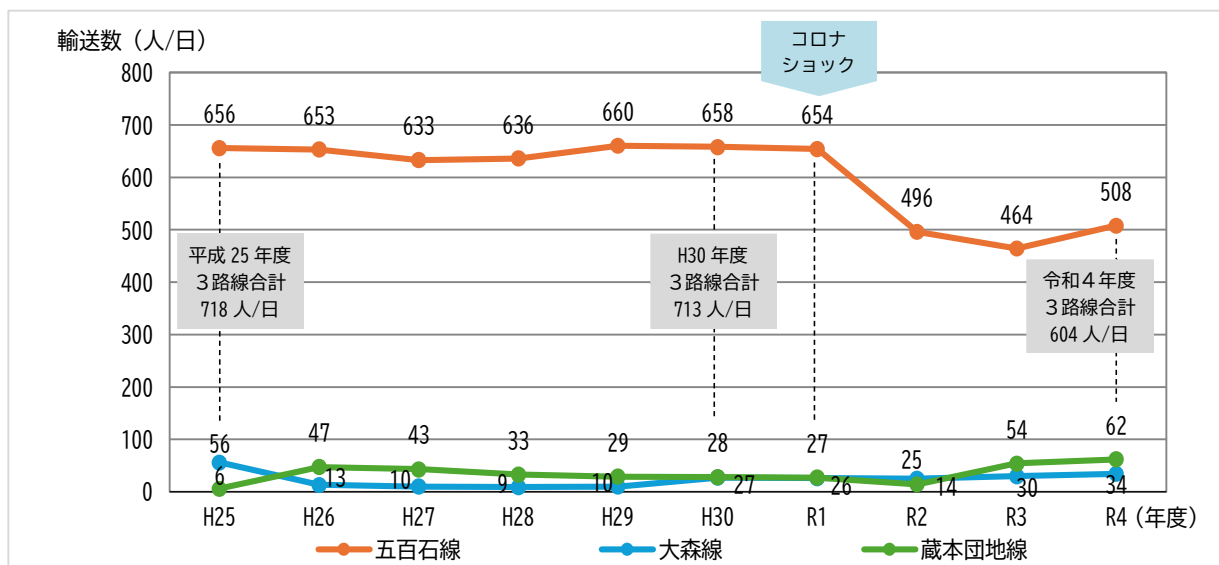


図 地鉄バスの1日当たりの利用者数の推移（富山地方鉄道資料）

④ 町営バス

- ・町営バスは、町内の日常の移動を支える地域の足として計6路線運行されています。
- ・「伊勢屋線」や「芦峯寺線」の利用者が大きく減少する中、令和4年度はこれら以外の4路線でコロナ禍前の水準を上回っています。

■概要

町営バスは、町内の各地域を回り、五百石駅や千垣駅、各種施設を結ぶコミュニティバス及びおでかけワゴンです。

全6路線 60 本/日が運行されており、町内の日常の移動を支える地域の足となっています。

運賃は、一律 200 円となっています。

表 町営バス運行本数（町営バス時刻表）R6.7 時点

経由・経路	運行日	運行本数 (本/日)	備考
①伊勢屋線	月～土	11	12/29～1/3 運休
②北部循環線	月～金	2	同上
③吉峰線	月～金及び 第1・2・4土運行	10	同上
④芦峯寺線	月～土・祝日	20	12/29～1/1 運休
⑤利田・大森線 (おでかけワゴン)	月～金	10	12/29～1/3 運休
⑥新川・下段線 (おでかけワゴン)	月～金	7	同上
合 計		60	

■利用状況

一日当たりの利用者数が最も多いのは、「芦峯寺線」が運行を開始した平成24年度であり、全体的に減少傾向にあります。特に「伊勢屋線」や「芦峯寺線」で著しい減少傾向がみられる中、その他路線は横ばいまたは微減の状態が続いています。

令和2年度は、コロナ禍の影響を受け全ての路線で前年度より減少するものの、令和4年度には「伊勢屋線」や「芦峯寺線」を除きコロナ禍前の水準を上回っています。

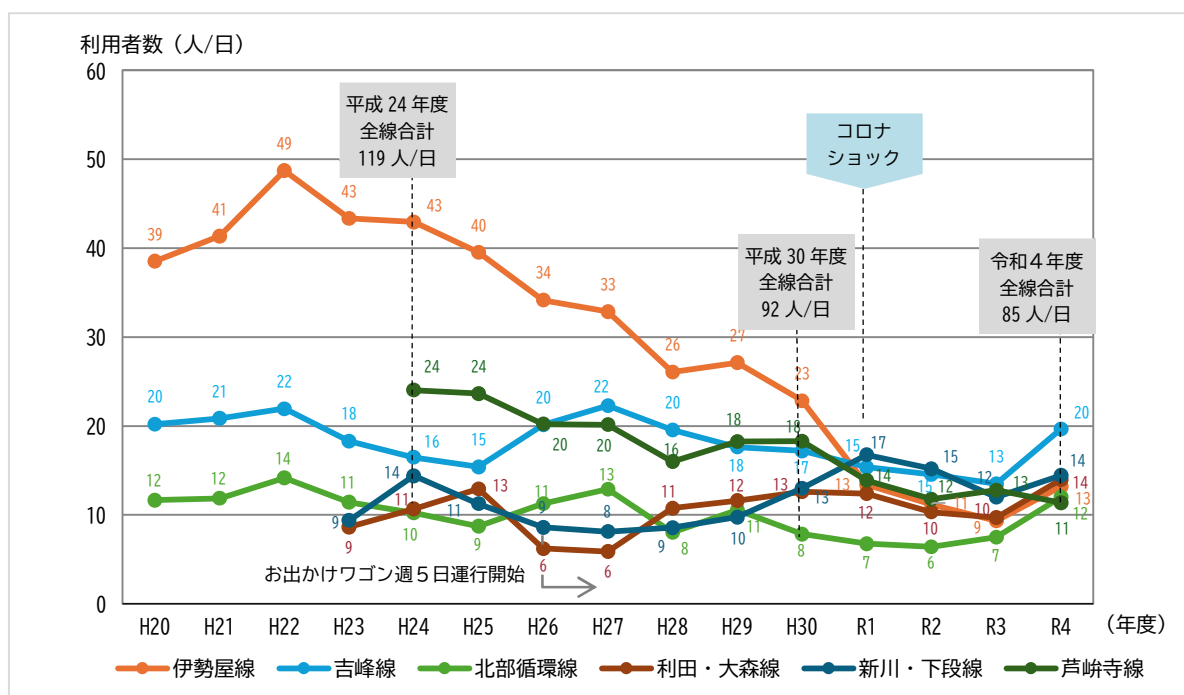


図 町営バスの利用者数推移（住民課資料）

⑤ スクールバス

- ・小中学校の児童・生徒の通学の足としてスクールバスが運行されており、一日当たり約 80 人程度の利用があります。
- ・通学補助を利用し公共交通で通学する児童・生徒も、年間約 160 人以上います。

■概要

令和 5 年度は、小学校 3 校と雄山中学校において、児童・生徒の居住地区と学校とを結ぶスクールバスが運行されています。スクールバスは、地区別に 6 コースが運行し、自宅から学校までの距離が小学校片道 4 km／中学校片道 6 km を超える児童・生徒に対する遠距離通学対策として導入されており、日常に欠かせない通学の足となっています。運賃は無料です。

表 令和 5 年度スクールバス利用者の状況（立山町資料）

学 校（台数）	利用者数	居住地区	車両（定員）	運行委託者
高野小学校（1 台）	22 人	上中地区 6 人、石坂地区 1 人、白岩地区 1 人、虫谷地区 1 人、日中地区 9 人、日中上野地区 1 人、野沢地区 3 人	日野乗合自動車(44)	アルペン交通
立山小学校（1 台）	16 人	岩峯野地区 3 人、吉峰地区 4 人、芦峯寺地区 6 人、横江地区 3 人	日野乗合自動車(27)	アルペン交通
立山小学校及び立山中央小学校（1 台）	17 人	吉峰地区 4 人、末上野地区 1 人、上瀬戸地区 3 人、中林地区 1 人、上金剛寺地区 5 人、金剛寺地区 3 人	トヨタ乗合自動車(27)	アルペン交通
雄山中学校（3 台）	12 人	四谷尾地区 3 人、白岩地区 1 人、福田地区 1 人、日中地区 4 人、野沢地区 3 人	ニッサンディーゼル乗合自動車(45)	アルペン交通
	9 人	中林地区 1 人、上末地区 1 人、上瀬戸地区 1 人、上福田地区 1 人、上中地区 4 人、上末地区 1 人（立山小）	日野乗合自動車(44)	アルペン交通
	2 人	芦峯寺地区 2 人	トヨタ乗合自動車(15)	富山地方鉄道
	78 人		6 台	

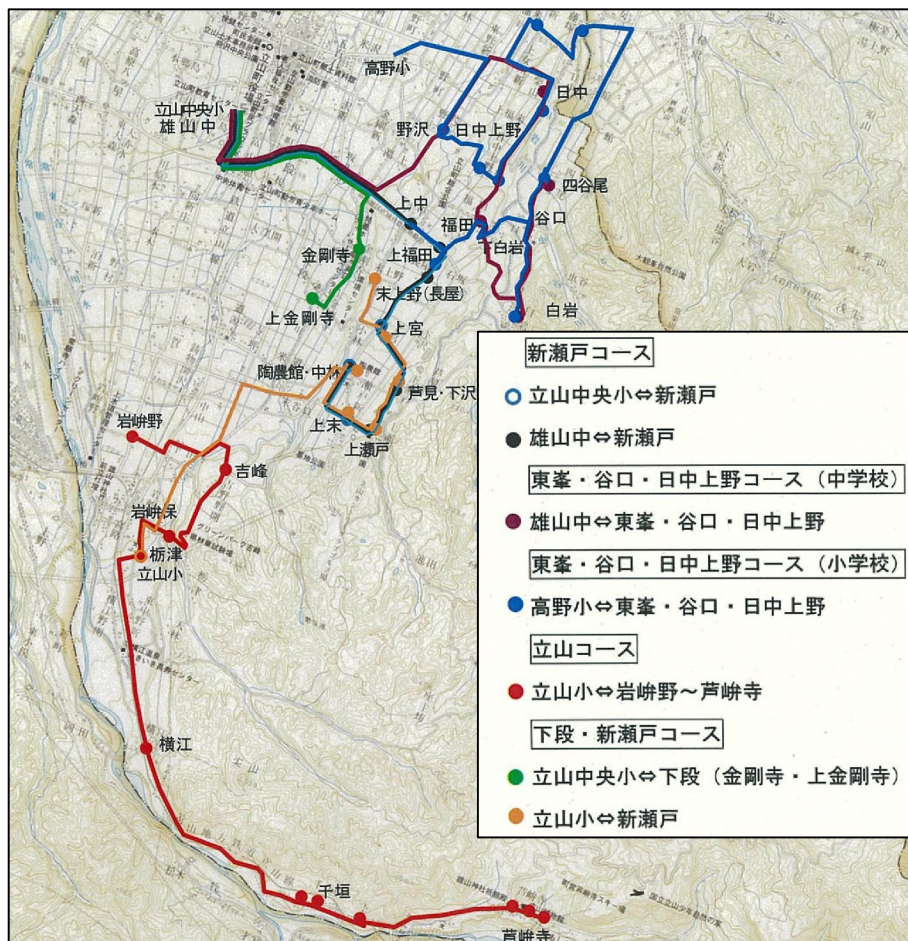


図 令和 6 年度 スクールバス運行経路図（立山町資料）

■利用状況

スクールバスの利用者は、一日当たり 70～100 人程度を推移しています。コロナ禍においても運行されていたため、利用者数の推移に大きな変化は見られていません。

また、立山中央小学校及び雄山中学校では、遠方在住の児童・生徒に対して通学補助が行われており、令和 5 年度は 165 人が、公共交通である地鉄バス、地鉄電車、町営バスを利用して通学しています。

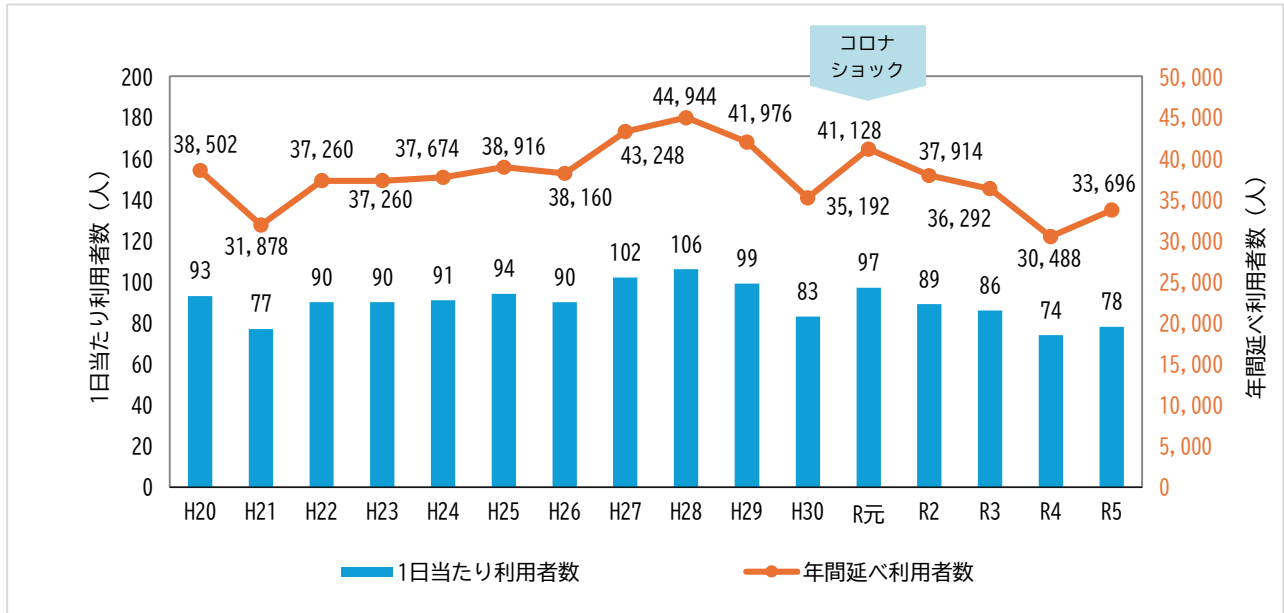


図 スクールバスの一日当たり及び年間延べ利用者数の推移（教育課資料）

※年間利用者数は利用者数（人/日）×運行日数×往復で算出

表 通学補助内容及び利用者数（教育課資料）

対象地区	対象地区	補助内容	利用者数（人）			
			R2	R3	R4	R5
立山中央 小学校	西大森、三ツ塚新、泊新、半屋、東大森、大清水、高原八ツ屋、蔵本新、大日町、大清水新町、大石原	地鉄バス、通学定期費用 1 / 2、現金支給	149	143	136	123
	大窪 13 区	町営バス、回数券購入費用 1 / 2、現金支給	—	—	6	4
	野口 12 区（田添駅⇄榎町駅）	地鉄電車、年間通学定期費用 1 / 2、現金支給	2	1	1	2
雄山 中学校	浅生・塚越地区	地鉄電車、利用区間と基本額との差額 1 / 2、現金支給	5	4	2	2
	芦峯・千垣地区（千垣駅⇄榎町駅）、横江地区（横江駅⇄榎町駅）、その他地区（岩峯寺駅⇄榎町駅）	地鉄電車定期券現物支給（ICカード年間バス）	40	31	36	34
合 計			196	179	181	165

⑥ 福祉バス

- ・各地区と福祉サロンを結ぶ福祉バスは、定期路線（月 1 回）及び予約式で運行されています。
- ・利用者は減少傾向にありましたが、新型コロナウイルスの影響でさらに大きく減少し、コロナ禍前の水準には回復していません。

■概要

福祉バス「ことぶき号」は、みらいぶくつろぎサロン（立山町元気交流ステーション内）への参加を目的に、町内各地を回り五百石駅に運行しています。予約運行を基本としますが、毎月 1 回町内各地を巡回しています。

運賃は無料で、定期運行についてはみらいぶくつろぎサロンへの参加が条件となっています。

表 町営バス運行概要（社会福祉協議会資料）R6. 7 時点

項 目	内 容	備 考
運行路線	10 路線	
定期路線 運行	■毎月 1 回町内各地を巡回 行き目安：8:35～9:50 帰り目安：11:15～12:30 ※巡回スケジュールは、みらいぶくつろぎサロンカレンダーに掲載	大森・利田、高野・新川、日中・福田は、要望に応じて巡回
予約式運行	■利用法 1 みらいぶくつろぎサロン送迎での利用 ■利用法 2 視察や研修での利用（県内、平日及び土曜） 「福祉、介護、防災に関する研修・視察」「福祉、介護、防災に関する行事への参加」「他地区の福祉団体等との交流」「ボランティア活動の推進」等 ■予約方法 地区の老人クラブ理事と連名で申請書の提出	地区別年度内利用可能回数（R6） 五百石…6 回 新川…4 回 下段、釜ヶ淵、立山…各 3 回 高野、大森、利田、上段…各 2 回 東谷…1 回
運 賃	無 料	バス利用はみらいぶくつろぎサロンへの参加が条件

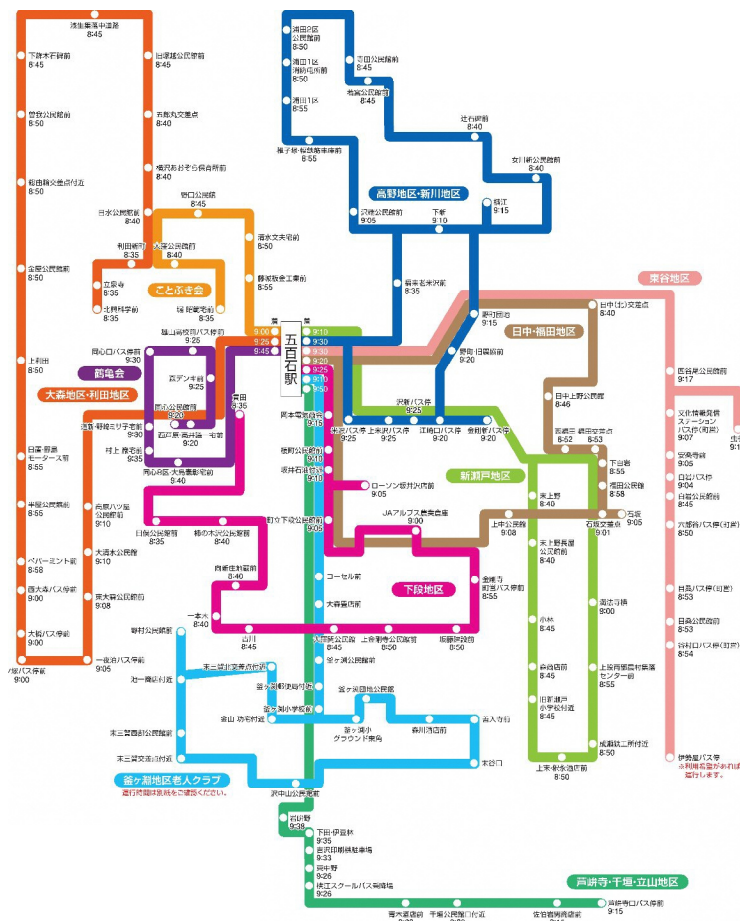


図 福祉バス（ことぶき号）運行ルート表

■利用状況

福祉バス「ことぶき号」の年間利用者数は平成 24 年度に大きく増加し、その後、減少傾向が続いていましたが、新型コロナウイルスの影響で令和 2 年度には大幅に減少（H30 年比約 9 割減）しました。その後、増加に転じていますが、コロナ禍前の平成 30 年度以前の水準には回復していません。

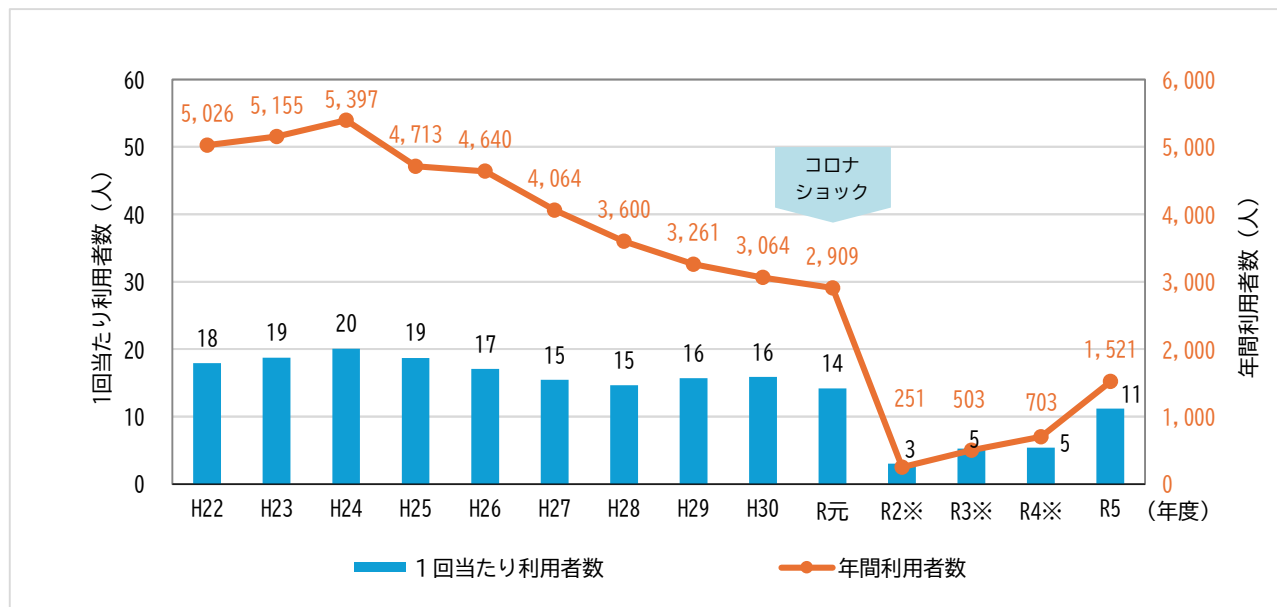


図 福祉バス「ことぶき号」の利用者数推移（社会福祉協議会資料）

※R2～R4 は感染症対策のため乗車定員（28 名）を 14 名へ制限

⑦ 高齢者等外出支援サービス事業

・高齢者や障害者等が主に通院で利用する町の個別輸送サービスで、利用者は年々減少しています。

■概要

在宅で日常的に車いすを利用している高齢者や下肢が不自由で外出困難な高齢者等に対し、本町が外出支援として運行する「ドア・ツー・ドア」の個別輸送サービスです。主に病気等の治療のために医療機関への送迎を要する場合に利用されています。

表 高齢者等外出支援サービス事業の概要（社会福祉協議会資料）R6.7時点

項 目	内 容
実施主体（運行主体）	立山町（立山町社会福祉協議会）
種 別	市町村運営有償運送（市町村福祉輸送）
運送の区域	立山町及び近隣市町村
対象者の範囲	立山町内居住で次のいずれかに該当する方で、寝たきり又は車いす使用のため一般の交通機関を利用することが困難で、車両を利用するにあたり医療処置を要しない方（あらかじめ本事業利用の登録を受けた者） (1)おおむね 65 歳以上の者 (2)介護保険法（平成 9 年法律第 123 号）第 7 条第 3 項に規定する要介護者又は同条第 4 項に規定する要支援者 (3)その他、町長が特に必要であると認める者。
利用目的	(1)在宅福祉サービス又は介護予防・地域支え合い事業を実施する場所への送迎を要する場合 (2)病気等の治療等のため医療機関への送迎を要する場合
事業実施範囲	立山町内及びその隣接市町村（富山市、上市町、舟橋村）
利用日及び時間	月曜日から金曜日までの午前 9 時から午後 4 時 30 分
申 込	1 ヶ月前から 7 日前までに指定様式にて申込
料 金	利用料金＝距離料金＋時間料金、以上を往復分 例）片道単価、距離 5～10 km 未満（400 円）＋片道 1～2 時間未満（400 円）、往復の場合は 2 倍
運行車両（1 台）	トヨタ シエンタ（定員 6 人）

■利用状況

年度別の推移を見ると、登録者及び実施回数ともに減少しています。介護保険を利用し、民間のサービスを利用する方の増加により利用者数は減少していると推察されます。

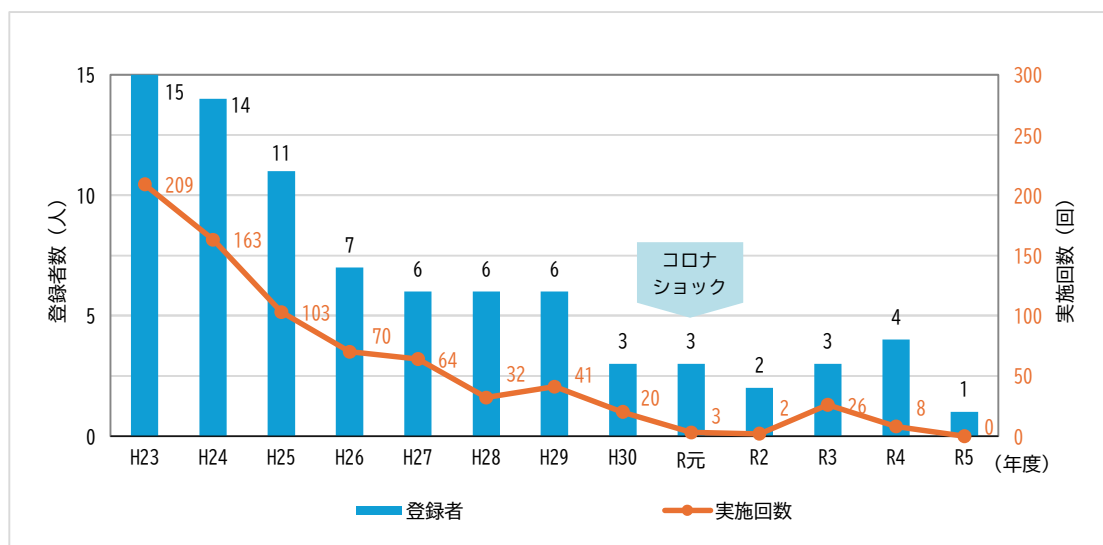


図 高齢者等外出支援サービス事業の登録者及び実施回数の推移（社会福祉協議会資料）

⑧ 買い物支援バス

- ・「お買い物支援バス」は五百石駅から町内各スーパーまで1日1往復するバスです。
- ・令和6年4月で運行を終了していましたが、運行中は高齢者の一定数の利用がありました。

■概要

五百石駅と3つの町内スーパーを曜日ごとに運行（1往復/日）する町営のシャトルバスです。令和4年11月から運行を開始し令和6年4月末で運行を終了しましたが、五百石地区を中心とする高齢者の買い物の足となっていました。運賃は無料でした。

表 お買い物支援バスの運行概要（商工観光課資料）

項目	令和4年度	令和5～6年度
運行期間	R4. 11. 28～R5. 3. 31	R5. 4. 4～R6. 4. 30
運行日 (1日1往復)	■週3日運行 ・大阪屋ショップ（月曜） ・シマヤ（水曜） ・アルビス（金曜）	■週2日運行 ・大阪屋ショップ、シマヤ、アルビスの順に、火・木曜日運行
運行本数	55本（月12～15本）	113本（月8～10本）
運行時間 (全ルート共通)	10:00 五百石駅西口発 10:10 スーパー着 （バス待機50分） 11:00 スーパー着 11:10 五百石駅西口発 ※令和5年度からは上記より5分遅れで運行	
運賃	無 料	
車 両	22人乗マイクロバス等	

■利用状況

月別の1日当たりの利用者数を見ると、概ね10～20人/日前後を推移しており、一定数の利用が見られています。

スーパー別では、概ねシマヤ、アルビス、大阪屋ショップの順に利用者数が多くなっています。

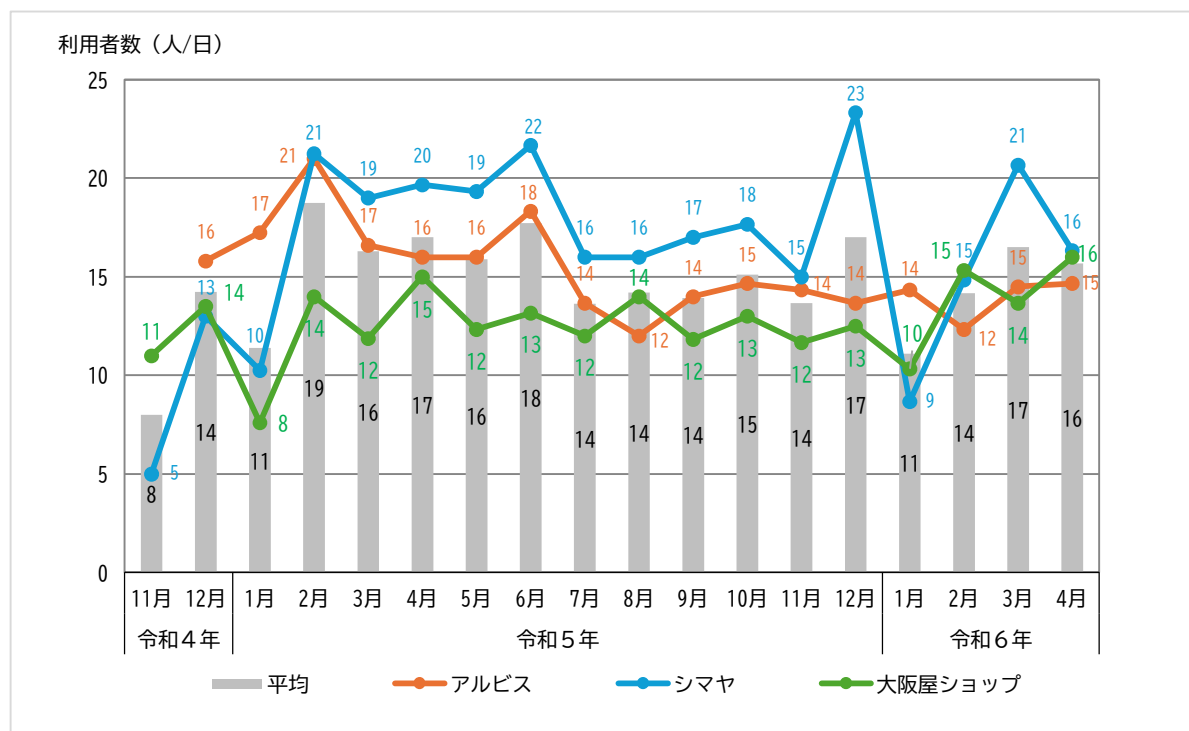
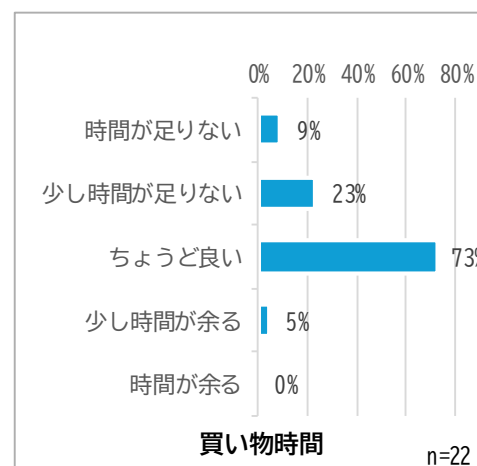
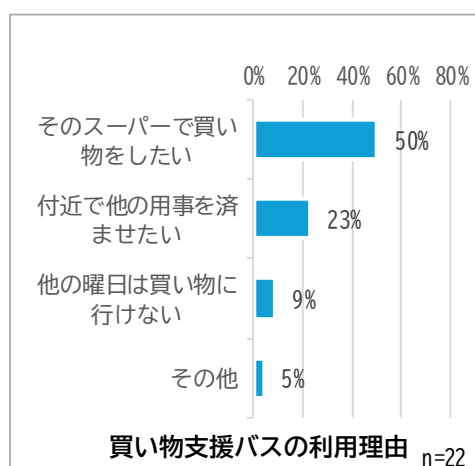
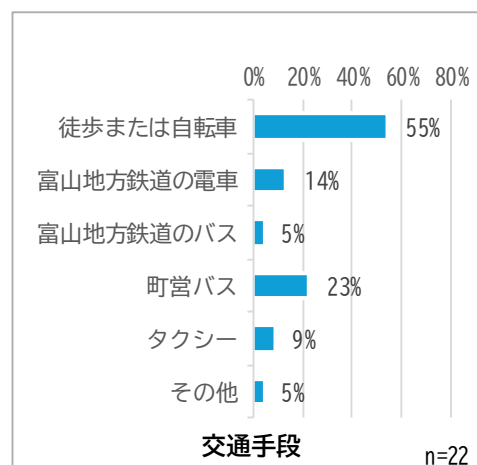
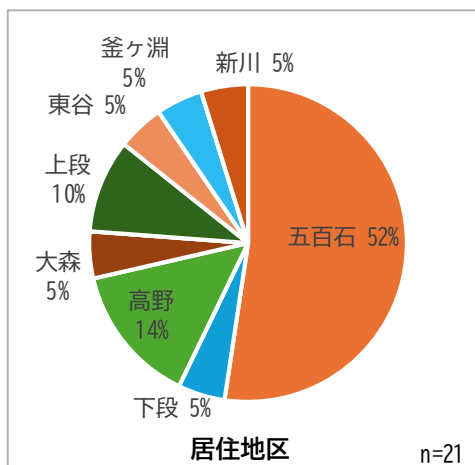
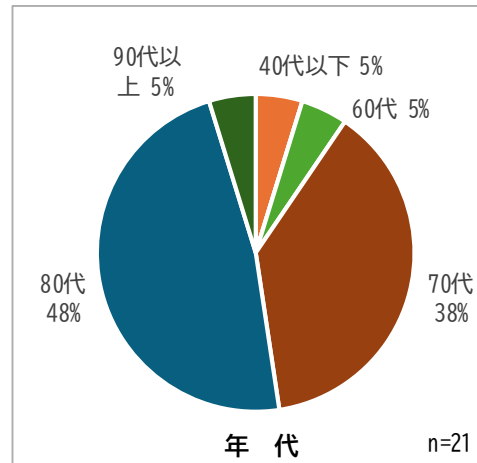
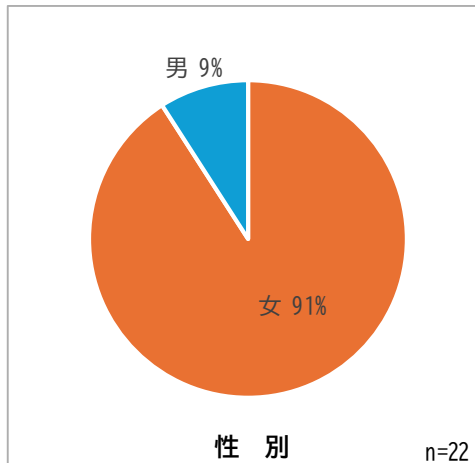


図 お買い物支援バス1日当たりの利用者数の推移（商工観光課資料）

参考：「お買い物支援バス」アンケート実施結果（商工観光課資料）

【実施概要】

- ・実施日：令和5年2月6日（月）、8日（水）、10日（金）
- ・対象者：「お買い物支援バス」利用者
- ・実施方法：バス車内で配布・回収
- ・回答者数：22人



(2) 公共交通不便・空白地域の状況

① 居住地からみた公共交通空白地域

・公共交通空白地域は一部に存在するものの、町域全体に公共交通が網羅されています。

一定以上の居住者がある地域において公共交通が利用できない「公共交通空白地域」をみると、利田地区や下段地区、五百石地区、大森地区の一部で見られるものの、町域全体ではほとんどの地域で公共交通の利用が可能であり、公共交通空白地域は少ない状況です。

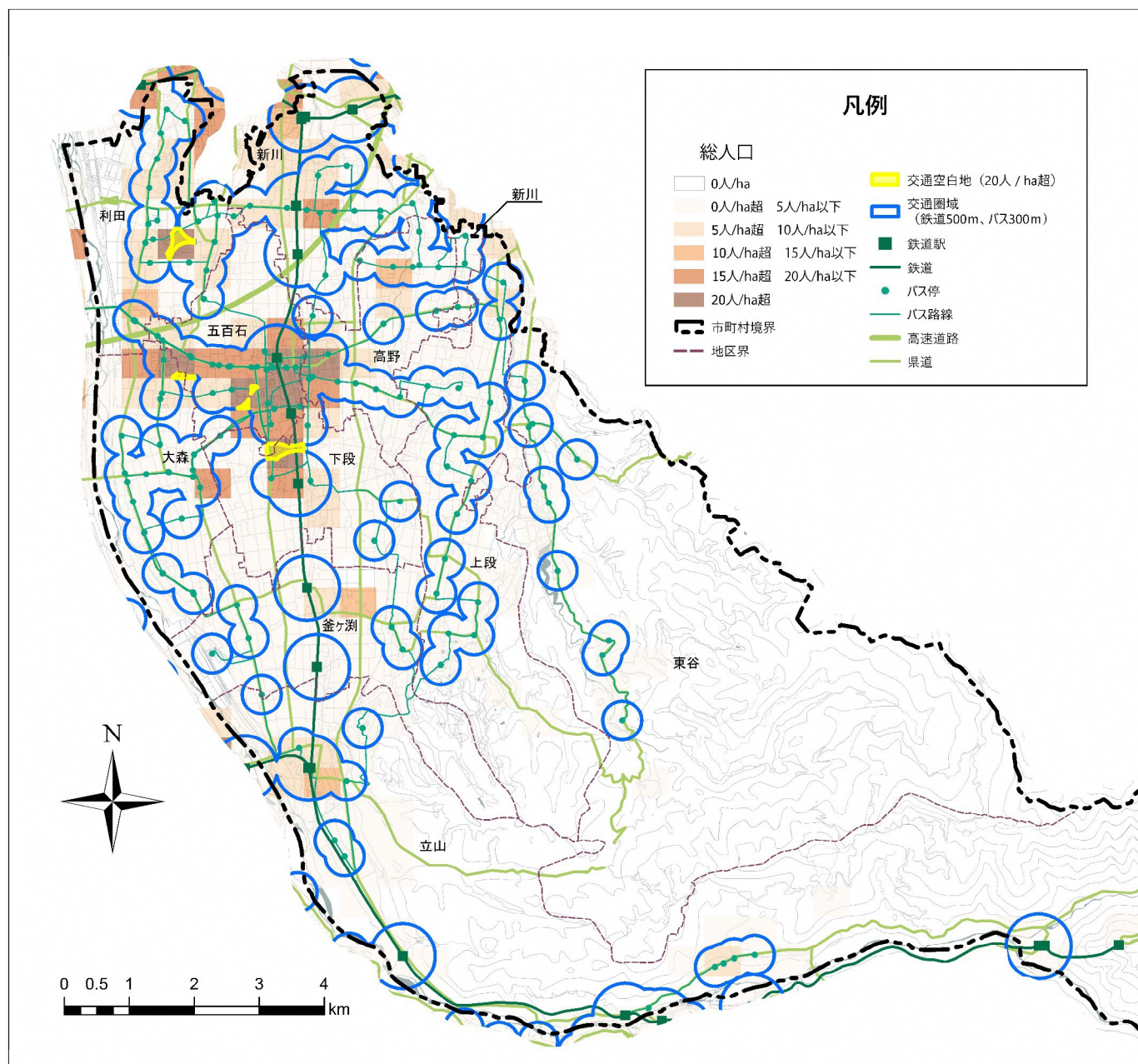


図 居住地からみた公共交通空白地域
(令和2年国勢調査、令和4年9月時公共交通圏域)

1-3 統計資料等による地域特性の明確化

(1) 統計資料等による地域特性の把握

① 通勤・通学流動

・本町から富山市への移動が大半を占めています。

■通勤流動

本町と市町村間の移動は、本町から富山市への移動者が大半を占めており、上市町、滑川市、魚津市などでも移動者がみられています。

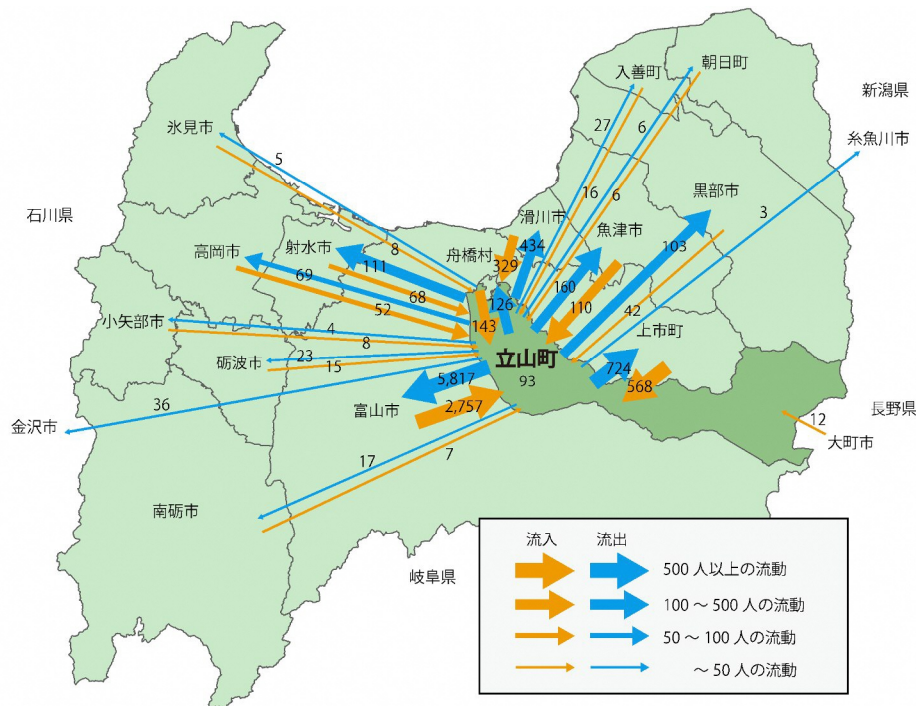


図 立山町の通勤流動 (令和2年国勢調査)

■通学流動

本町と市町村間の移動は、本町から富山市への移動者が大半を占めており、上市町、滑川市、射水市などでも移動者がみられています。

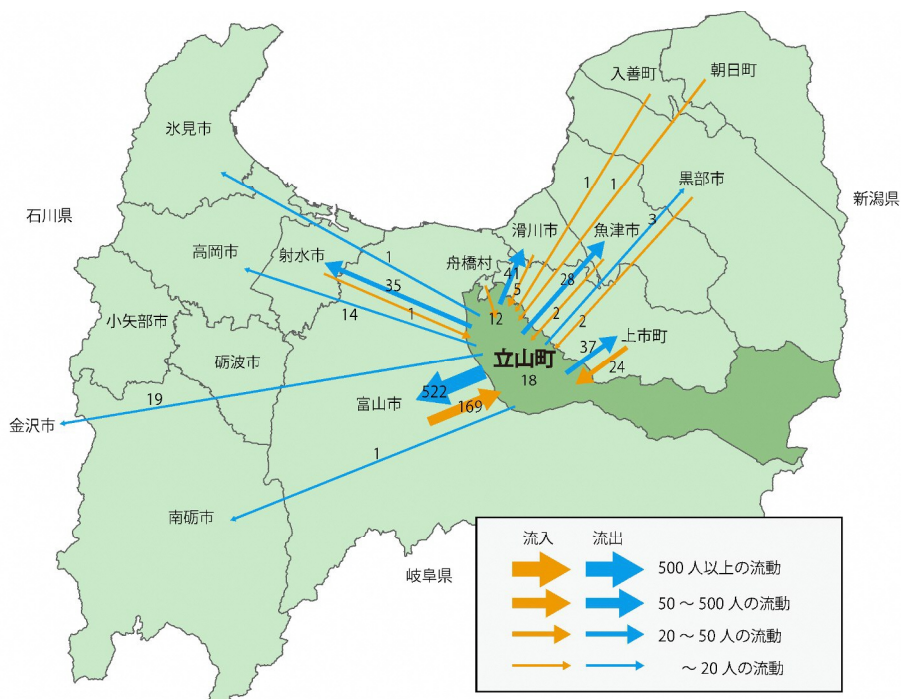


図 立山町の通学流動 (令和2年国勢調査)

② 通勤・通学者の利用交通手段

・町民のほとんどで、自動車による移動を前提とした生活様式が定着しています。

令和2年国勢調査における町民の交通手段をみると、就業者・通学者全体で「鉄道・電車」「乗合バス」「勤め先・学校のバス」の公共交通手段を利用した人は1割に満たなかったのに対し、「自家用車」は約8割を占める結果となっています。

10年前と比較すると、公共交通手段の利用率はモータリゼーションや人口の郊外化等により、平成22年の9.5%から令和2年の8.9%に低下しており、自動車による移動を前提とした生活様式が定着しています。

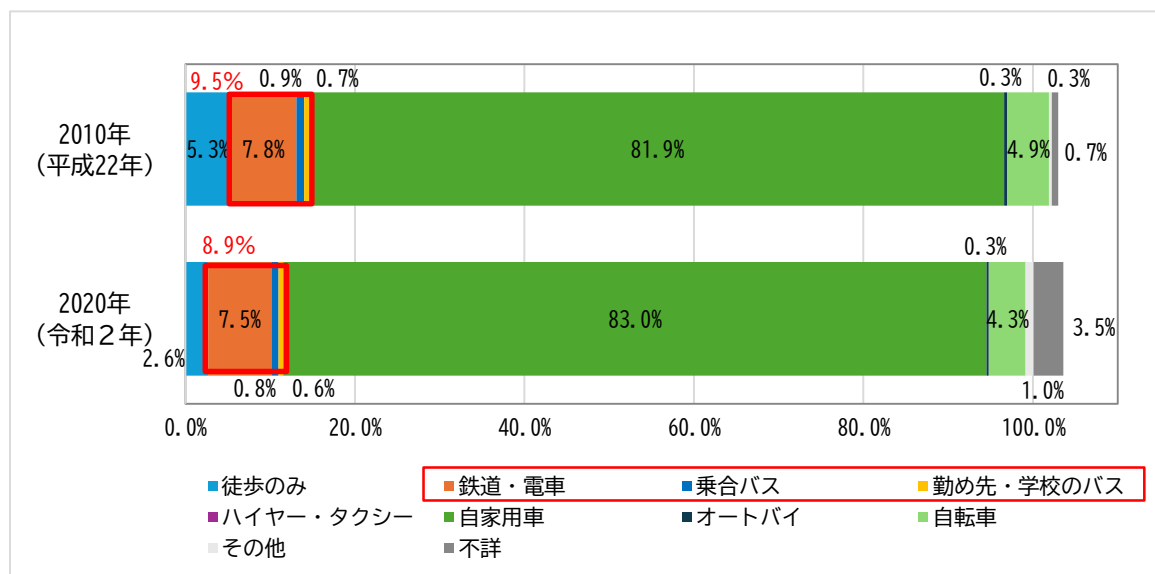


図 就業者・通学者の交通手段（各国勢調査）

③ 立山町高齢者運転免許自主返納支援制度の利用状況

・近年、「高齢者運転免許自主返納支援制度」の利用者が多い状況が続いています。

本町においては運転免許を自主返納した高齢者を対象に、代替移動手段に係る支援として「高齢者運転免許自主返納支援制度」を行っています。利用者数は、新型コロナウイルス感染症拡大前の令和元年が最も多く、その後やや減少するものの、近年は年間 60 人前後を推移しています。

申請者は 70～80 歳代が中心であり、5 歳階級別では 80～84 歳が最も多くなっています。

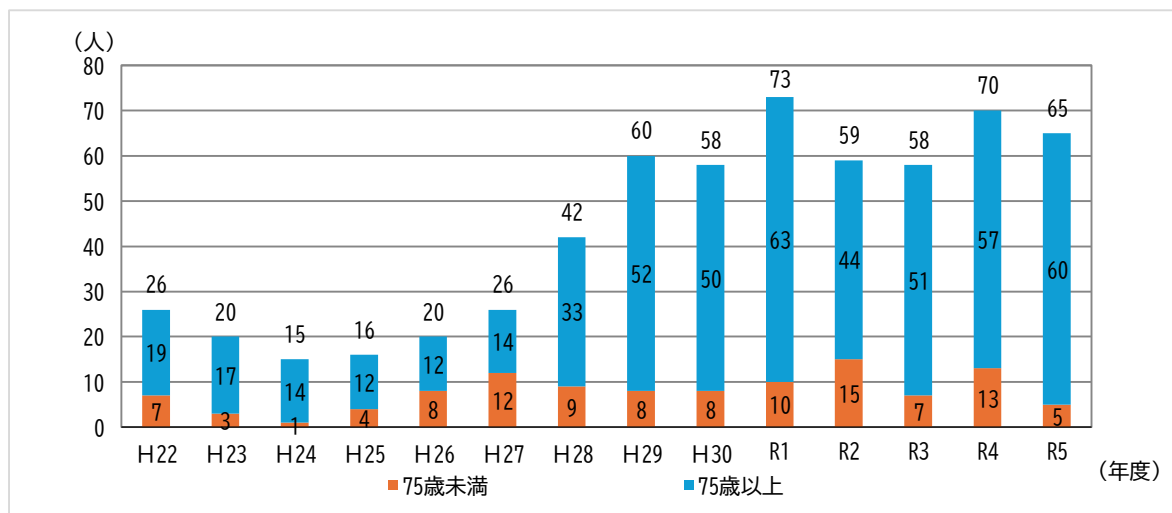


図 運転免許証自主返納支援事業申請数の推移（立山町住民課資料）

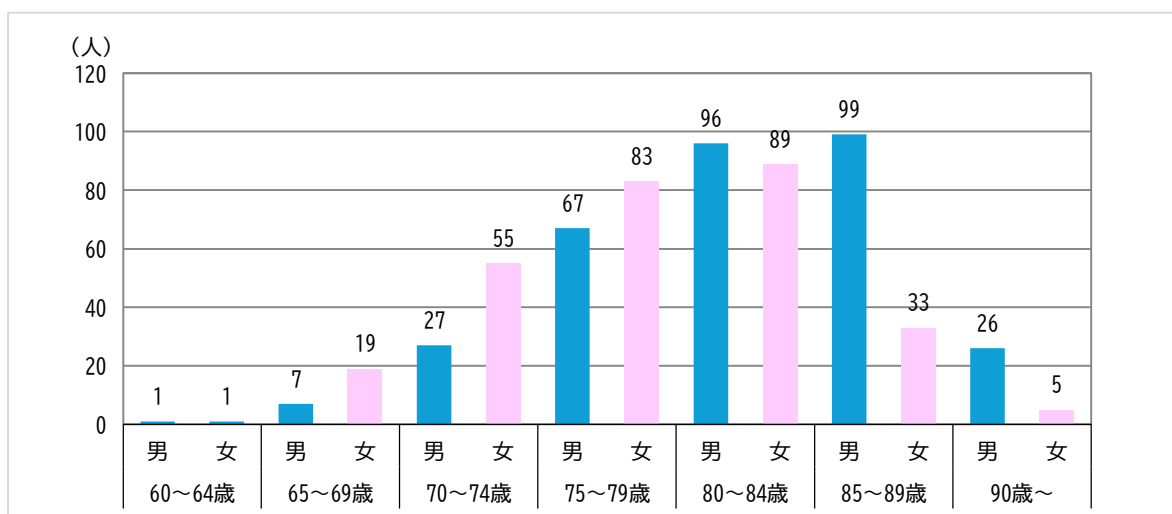


図 年齢5歳階級別 運転免許返納者数（H22～R5）（立山町住民課資料）

●高齢者運転免許自主返納支援制度

〔支援対象者〕

・運転免許有効期間内の全ての運転免許を全部返納した方、かつ町在住で 65 歳以上の方

〔支援内容〕

・町営バス・ワゴンの 3 年間フリーパスの定期券「立山町民お気軽パス」を交付

④ 高齢者等タクシー・バス運賃助成制度の利用状況

・町内タクシー・町営バスの運賃の助成として付与されるたてポカード「交通ポイント」の利用者は、近年増加傾向であり一定の利用があります。

本町においては、免許を返納した高齢者・障害者等を対象に、町内タクシー・町営バスの運賃助成として電子地域通過たてポ「交通ポイント」を付与しています。利用者数は、令和3年度までは減少傾向でしたが、令和5年度は前年度比2倍となっています。利用ポイント実績は、過去最大となる令和2年度からは減少するものの、近年、年間100万ポイント前後の利用があります。

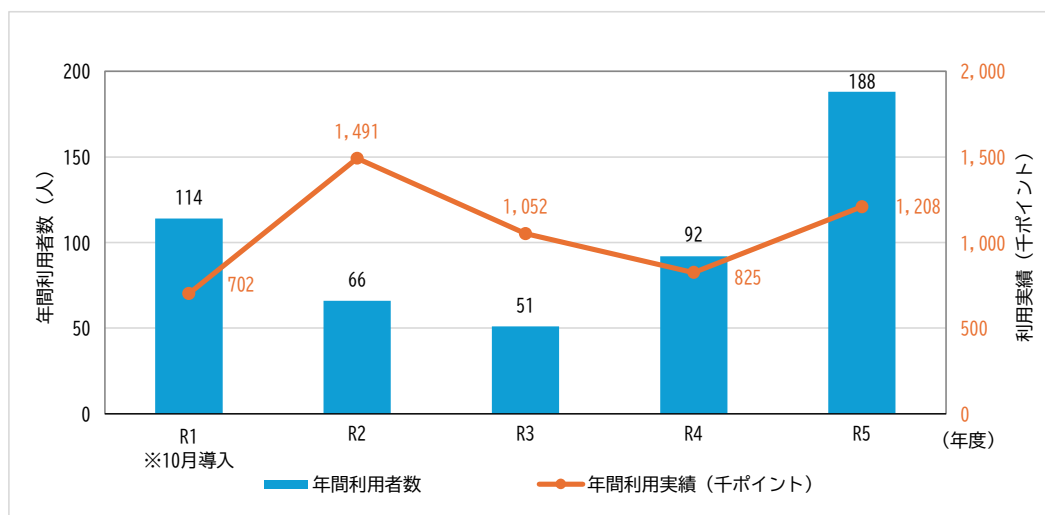


図 たてポカード「交通ポイント」利用者数及び利用実績（立山町資料）

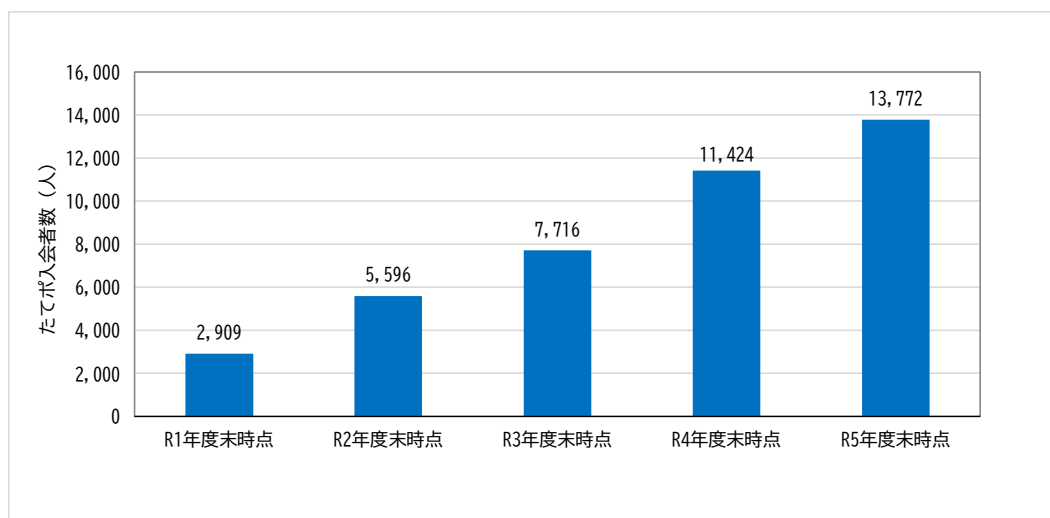


図 たてポカード入会者総数（各年度末時点）（立山町資料）

●高齢者等タクシー・バス運賃助成制度（たてポカード交通ポイント）

運転免許を持たない高齢者・障害者手帳をお持ちの方で、マイナンバーカードとたてポカードをお持ちの方に、町内タクシー・町営バスの運賃として利用できる、たてポカード「交通ポイント」を付与しています。

【対象者】

- ①町に住民票があり、実際に居住している方
- ②運転免許証を持たない方
- ③下記のいずれかに当てはまる方
 - ・75歳以上
 - ・18歳以上で身体障害者手帳1・2級（下肢、体幹、視覚障害）をお持ちの方
 - ・18歳以上で精神障害者保健福祉手帳1・2級をお持ちの方

【助成額】

月額2,000ポイント（1ポイント＝1円） ※有効期限は付与日翌月末

⑤ 1世帯当たり自家用自動車保有台数の動向

・車の保有台数は横ばい傾向ですが、1世帯当たりでは県平均と比べてやや高くなっています。

本町の自家用乗用車保有台数は横ばい傾向が続いており、令和5年の一世帯当たり保有台数は1.90台と県平均と比べやや高い値となっています。

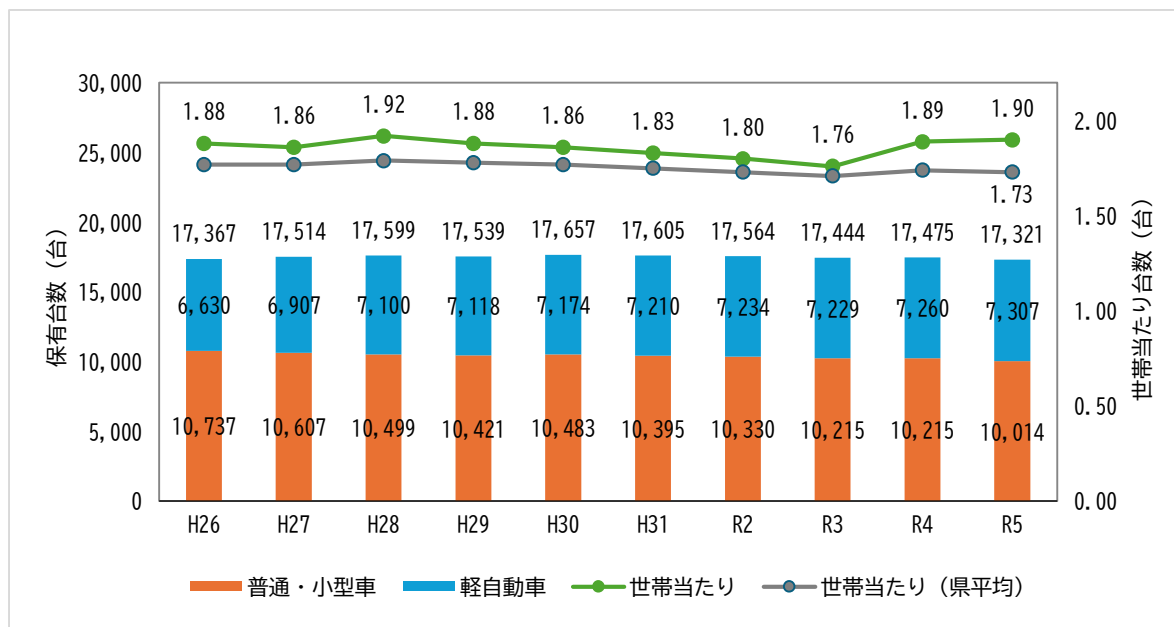


図 自家用乗用車保有台数の推移（北陸信越運輸局富山運輸支局資料）
※各年3月31日現在。世帯数は「富山県人口移動調査」による。